Honda除雪機をお買いあげいただき誠にありがとうございます。お買いあげいただきました商品や、サービスに関してお気づきの点、ご意見などがございましたら、**お買いあげいただいた販売店**にお気軽にお申しつけください。

●一般公道では使用できません。

取扱説明書について

この取扱説明書は

ー除雪作業をするときは、必ず携帯してください。

ー除雪機を貸与または譲渡される場合は、本機と一緒にお渡しください。

ー紛失や損傷したときは、お買いあげいただいた販売店にご注文ください。

---

e-SPECは、Hondaが「豊かな自然を次の世代に」という願いを込めた汎用製品環境対応技術の証です。

はじめに

この取扱説明書は、お買いあげいただいた除雪機で安全かつ能率的な除雪作業をする手助けとして編集されたものです。
取扱説明書の中には、本機の正しい取扱い方法、簡単な点検及び手入れについて説明してあります。
本機を運転する前にこの取扱説明書を良くお読みいただき、本機の操作に習熟してください。

安全に関する表示について
本書では、運転者や他の人が傷害を負ったりする可能性のある事柄を下記の表示を使って記載し、その危険性や回避方法などを説明しています。これらは安全上特に重要な項目です。必ずお読みいただき指示に従ってください。

⚠危険
指示に従わないと、死亡または重大な傷害に至るもの

⚠警告
指示に従わないと、死亡または重大な傷害に至る可能性があるもの

⚠注意
指示に従わないと、傷害を受ける可能性があるもの

その他の表示

取扱いのポイント
指示に従わないと、本機やその他の物が損傷する可能性があるもの

なお、この取扱説明書は、仕様変更などによりイラスト、内容が一部実機と異なる場合があります。

目　　　　次

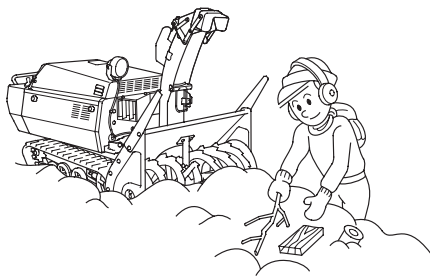
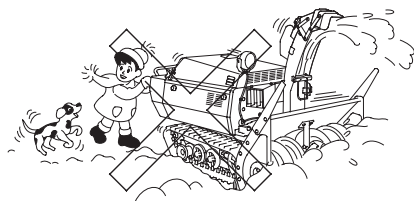
安全にお使いいただくために

警告

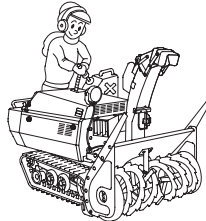
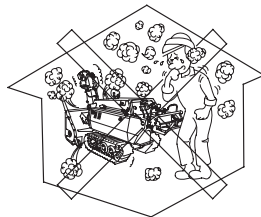
あなたと他の人の安全を守るために次の指示に従ってください。

●作業を始める前に

- 過労や飲酒、薬物を服用して除雪機を使用しないでください。判断が鈍り重大な事故を引き起こすことがあります。
- この取扱説明書を事前に読み、正しい取扱い方法を十分ご理解の上自分で操作してください。
- 間違いなく取扱うために各部操作に慣れ、すばやく停止する方法を習得してください。
- エンジンを始動する前に必ず「エンジンをかける前の点検」（30～37頁）を行ってください。事故や機器の損傷防止になります。
- 悪天候などで視界の悪いときは作業をしないでください。事故の危険性が高くなります。
- 適切な指示、説明なしでは絶対に誰にも除雪機の運転操作をさせないでください。また、子供には操作させないでください。事故や、機器の損傷が起こる原因となります。
- カバーやラベル類、その他の部品を外して除雪機を操作しないでください。また誤った部品を取付けたり改造をしないでください。思わぬ事故の原因となることがあります。
- 本機は除雪以外の目的で使用しないでください。故障の原因となるばかりでなく、思わぬ事故を引き起こすおそれがあります。
- 除雪作業を行う前に除雪しようとする場所を点検してください。ケガや除雪機の故障の原因となることがあるので石、棒、板、針金などの障害物を取除いてください。また降雪した後で障害物が見えなくなる場合があるのでシーズン前にあらかじめ除雪する場所の障害物を取除くようにしてください。

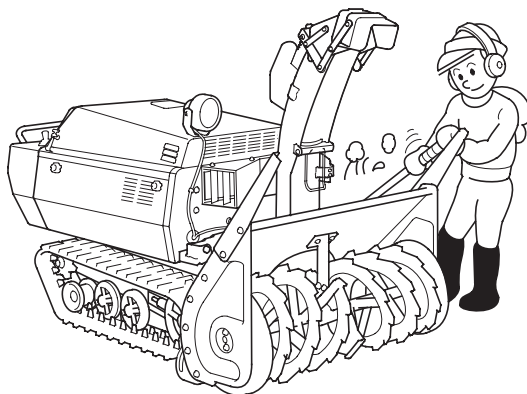
- 作業をする時は、手袋、帽子、防寒服、防寒靴等防寒用の身支度をしてください。また防寒靴はすべり止めのあるものを着用してください。

これだけはぜひ守りましょう

警告

- 砂利道などの除雪は、石の飛び出しなど非常に危険を伴いますので注意してください。
- ソリ、スクレーパを適切に調節し、オーガが石を巻き込まないようにして作業してください。
- 投雪場所は石が飛び出しても支障がない所を選んでください。
- 石を巻き込むと、除雪機の故障の原因となるとともに思わぬ事故の原因にもなります。
- 定められた点検を必ず行い、不具合のある場合は使用前に修理をしておき、不備な状態での使用は絶対に行わないでください。
- 燃料は非常に引火しやすく、また気化した燃料は爆発して死傷事故を引き起こすことがあります。燃料を補給するときは必ずエンジンを停止して屋外の換気の良い場所で行ってください。
- 燃料を補給するときや燃料タンクの付近では、タバコを吸ったり炎や火花など火気を近づけないでください。
- 燃料をこぼさないように注意し、所定のレベル（給油限界位置）を超えないように補給し、燃料キャップを確実に締めてください。もし燃料がこぼれた場合は、きれいにふき取りよく乾かしてからエンジンを始動してください。

- 屋内や換気の悪い場所では、エンジンをかけないでください。有害な一酸化炭素がたまってガス中毒を引き起こすおそれがあります。

- 屋根に積った雪や急斜面での除雪は行わないでください。除雪機が転倒して作業者や近くにいる人にケガをさせることがあります。

警告

●作業中の注意

- 除雪部は回転しており誤って触れると大ケガをするおそれがあるので、手足などを絶対に近づけないようにしてください。また、作業範囲に人や動物が近づかないように十分注意してください。人や動物が近づいたときは除雪をやめてください。
- 除雪部分や投雪口は危険ですので顔や手足などを絶対に近づけないでください。
- 投雪方向を人や建物等に向けて使用しないでください。投雪方向の調節は状況に応じて適切に行ってください。
- 万一、雪の中に石などの異物が混じっている場合は、それらが投雪口からだけでなく、除雪部から前方に投げ出されることがあるので、前方にも常に注意してください。
- 除雪部および投雪口に詰まった雪を除去するときは、エンジンを停止し、誤ってエンジンが始動しないようにエンジン　スイッチ　キーを抜きます。各回転部が完全に止まってから、必ず備え付けの雪かき棒を使って雪を取除いてください。
  エンジンが回っているときは絶対に手を入れないでください。大ケガをするおそれがあります。

警告

- 急発進は、絶対に行わないでください。思わぬ事故の原因となることがあるので、必ず変速レバーを低速側または高速側のニュートラル　ポイント（16頁参照）の位置にしてから、走行クラッチを「入」にし、徐々に変速レバーを操作してください。
- 雪の上での作業は滑りやすく、転倒するおそれがあります。除雪中は足元に注意しハンドルをしっかりと握り、決して走らないでください。また方向転回時は、必ず本機を水平にし十分速度を落として行ってください。特に後進時には、足元および後方に十分注意してください。
- 共同作業は行わないでください。思わぬ事故を招くことがあります。
- 除雪中障害物に当ったときはすぐにエンジンを止め、エンジン　スイッチキーを抜き、回転部が停止していることを確認してから注意して損傷を調べてください。修理しないで再始動すると思わぬ事故につながります。
- 除雪の速度に注意し過負荷にならないようにしてください。エンジンに悪影響をあたえます。
- 駐車をするときは平坦な場所を選び、駐車ブレーキをかけて駐車してください。
- 傾斜地では、変速レバーを“N”（中立）の位置にしないでください。また高速、低速の切換えを行わないでください。本機が空走して、思わぬ事故を招くことがあります。

警告

●作業が終ったら

- 本機から離れるときには、オーガ　ハウジングを路面に接地させ、必ずエンジンを止め、エンジン　スイッチ　キーを抜いてください。いたずらなどで本機が動きだし、思わぬ事故を引き起こすことがあります。
- 本機を室内に格納するときは火災の原因とならないように、エンジンが冷えたのを確認してからボディ　カバーなどをかけて格納してください。
- 長期保管時には、タンク内の燃料を抜きとり本機を火気のない所に保管してください。また抜いた燃料は引火性があり、火災や爆発のおそれがありますので所定の燃料タンクなどに保管してください。
- 点検や清掃をするときは必ずエンジンを停止し、誤ってエンジンが始動しないようにエンジン　スイッチ　キーを抜いて行ってください。また、エンジン停止直後のエンジン本体やマフラなどは非常に熱くなっています。やけどをしないように、各部が十分に冷えてから作業を行ってください。
- 各部の点検でカバー類を開ける際は、必ずエンジンを停止し、やけどのおそれがありますので各部が冷えるまで十分時間をおいてから開けてください。
- ボンネットを開けたときは、必ずステー(保持棒)を正規の状態にセットしてください。
- 点検時、マフラに直接触れないように、ご注意ください。
- ボンネット内に、工具、燃えやすい物等を置き忘れないように注意してください。工具、取扱説明書などは、必ず所定の工具箱に収納してください。
- 作業時以外は、必ず除雪部を完全に路面まで下げておいてください。
- 作業後は、除雪部の雪を取除いて格納してください。残った雪が凍結し、次の使用に支障があるばかりでなく故障の原因にもなります。

安全ラベル

除雪機を安全に使用していただくため、本機は安全ラベルが貼ってあります。安全ラベルをすべてお読みになってからご使用ください。

本機に貼ってあるラベルの破れ、紛失または汚れなどでラベルが読めなくなってしまったときは新しいラベルに貼り替えてください。また安全ラベルが貼られている部品を交換する場合は、ラベルも新しいものに貼り替えてください。安全ラベルはお買い上げ販売店にご注文ください。

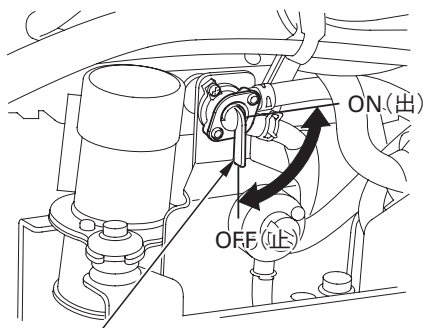
警　告
飛散物によりケガをするおそれがあるので、作業中は、投雪口を人や建物に向けないこと。
警　告
火気厳禁
火災や爆発により死傷するおそれがあるので、
●給油時にはエンジンを停止すること。
●給油口に火を近づけないこと。
注　意
手や衣服が巻き込まれるのでカバー類を外してエンジンを運転しないこと。
注　意
ヤケドをするのでマフラーにふれないこと。
危　険
■巻き込まれて死傷するおそれがあるので、エンジン回転中は、手や足を入れないこと。
■雪を取除くときは、必ずエンジンを停止してから、雪かき棒で行うこと。
警　告
排気ガスによる中毒のおそれがあるので、換気の悪い所で使用しないこと。
警　告
死傷事故防止のため、下記および取扱説明書を読み、理解して正しく取扱うこと。
●点検整備時はエンジンを停止すること。
傾斜地では本機がすべり落ちケガをするおそれがあるので、
●走行中変速レバーを「中立」位置にしないこと。
●低速、高速の切り替えをしないこと。

各部の名称と取扱いをおぼえましょう

ボンネット
作業灯
雪かき棒
コンパネ　ライト
ハンドル
燃料コック　レバー、
キャブレータ　ドレン　スクリュ
フレーム号機
表示位置
バッテリ
変速機オイル
給油タンク

除雪クラッチ
スイッチ
前照灯スイッチ
サイド　クラッチ
レバー（右側）
変速レバー
オーガ　ハイト　モータ表示灯
サイド　クラッチ
レバー（左側）
チョーク　ノブ
エンジン回転調節
レバー
駐車ブレーキ
レバー
エンジン　スイッチ
後進ストップ　レバー
投雪方向調節スイッチ
走行クラッチ　レバー
オーガ　ハウジング調節スイッチ

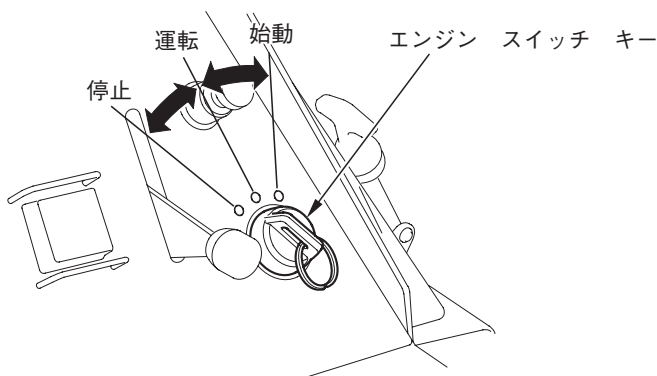
燃料コック　レバー

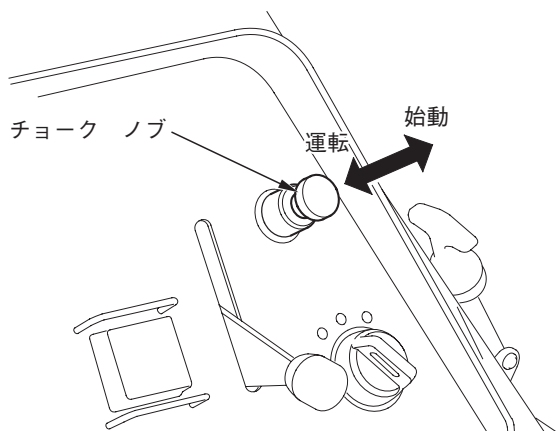
燃料コック　レバーは、タンクの燃料を出したり止めたりするときに操作します。運搬時や長時間運転しないときは“OFF”(止)にしてください。

エンジン　スイッチ

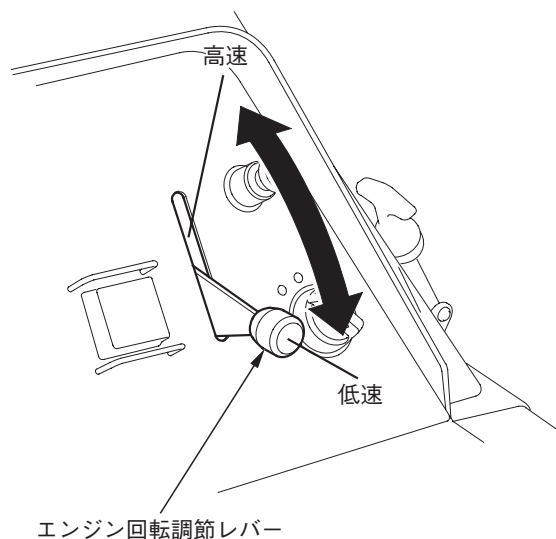
エンジンを始動、運転、停止するときに操作します。

停止‥‥ エンジンを停止する位置です。(キーの抜き取り、差し込みができます。)

運転‥‥ エンジン運転中の位置です。各電気系統がつながります。

始動‥‥ エンジンを始動させるときこの位置まで回し、保持します。スタータ　モータが回ります。エンジンが始動したらキーから手を離してください。自動的に“**運転**”の位置に戻ります。

チョーク　ノブ

エンジンが冷えているときに操作します。

エンジン回転調節レバー

エンジン回転を調節するときに操作します。通常は“高速”の位置でご使用ください。

変速レバー

本機を前進、後進するときに操作します。

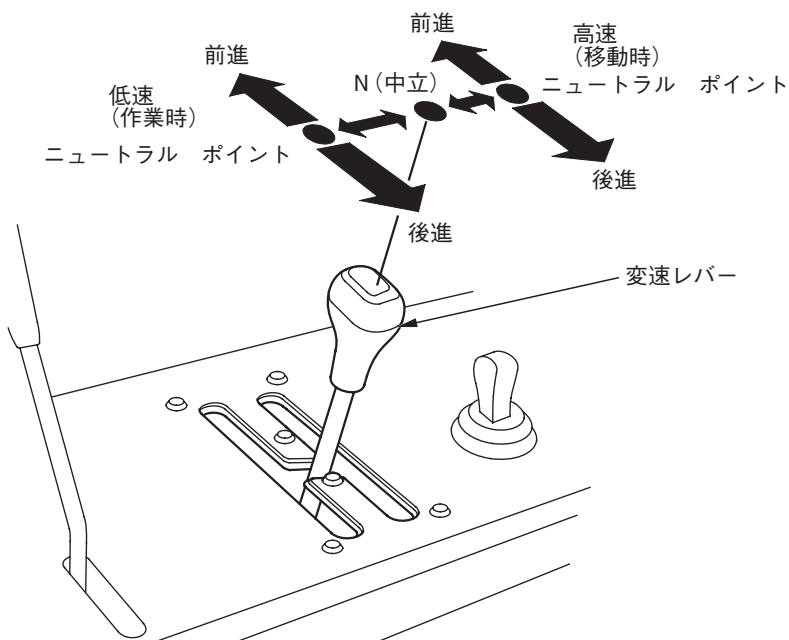
低速側(作業用)、高速側(移動用)に分かれそれぞれ、前進、後進の速度を無段階に調節することができます。

前進するときは・・・・ニュートラル　ポイントの位置から前方へ徐々に動かします。

後進するときは・・・・ニュートラル　ポイントの位置から後方へ徐々に動かします。

本機を使用しないときは低速側または高速側のニュートラル　ポイントの位置にしてください。

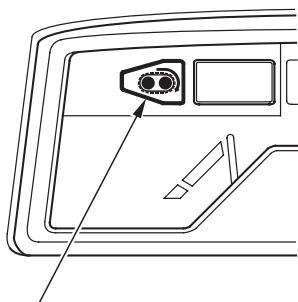
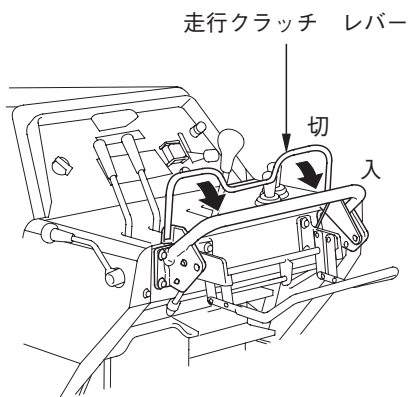
⚠警告

斜面で変速レバーを“N”(中立)の位置にしないでください。本機が空走することがあります。

走行クラッチ　レバー

走行クラッチ　レバーはクローラへの動力を断続します。

走行クラッチ　レバーを握ると動力が伝わり、放すと動力が切れます。

レバーを握る ･･････････････ 走行クラッチ「入」表示ランプ(緑)が点灯します。
変速レバーを操作することで本機が走行します。

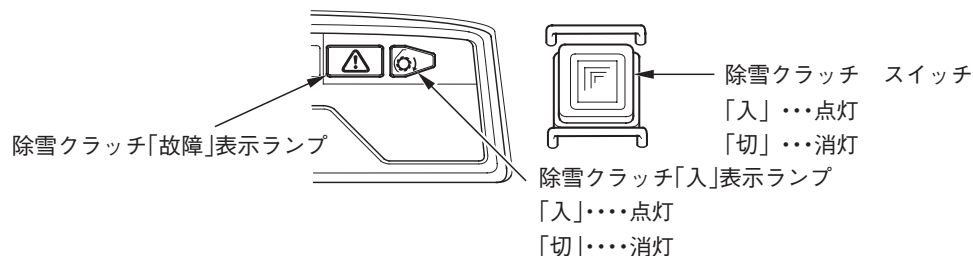
レバーを放す ･･････････････ 走行クラッチ「入」表示ランプ(緑)が消灯し、本機が停止します。

- 走行クラッチ「入」表示ランプはエンジン　スイッチを**“運転”**の位置にすると数秒間点灯し、消えるのが正常です。点灯しない場合は、お買い上げ販売店で点検を受けてください。

除雪クラッチ　スイッチ

除雪クラッチ　スイッチを押すと、除雪クラッチ「入」表示ランプ(緑)が点灯し、オーガとブロアが回転します。除雪クラッチ　スイッチを放すと消灯し、オーガとブロアの回転が止まります。

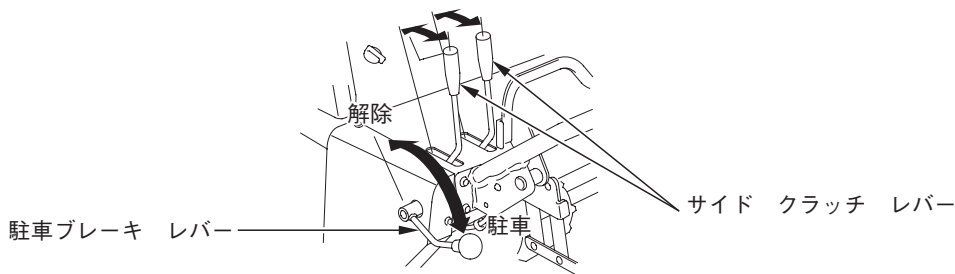
除雪クラッチ　スイッチと走行クラッチ　レバーを連動して作動させることができます。

走行クラッチ　レバー･･･「入」位置でスイッチを押すと(スイッチが点灯：緑)
- クラッチが作動しオーガとブロアが回転し始めます。除雪クラッチ「入」表示ランプ(緑)が点灯したら、除雪作業が開始できます。スイッチを押し続ける必要はありません。
- 除雪クラッチ「入」表示ランプ(緑)が点灯しない、または除雪クラッチ「故障」表示ランプ(赤)が点灯する場合は、お買いあげ販売店で点検を受けてください。

スイッチを再度押すと･･･(スイッチが消灯)
除雪クラッチ「入」表示ランプ(緑)が消灯し、オーガとブロアの回転が停止します。

走行クラッチ　レバーを放すと･･･(「切」位置にすると)
除雪クラッチ　スイッチ「入」表示ランプ(緑)が消灯し、オーガとブロアの回転が停止します。

- 除雪クラッチの「入」表示ランプ、「故障」表示ランプはエンジン　スイッチを**“運転”**の位置にすると数秒間点灯し、消えるのが正常です。点灯しない場合は、お買いあげ販売店で点検を受けてください。
- 除雪クラッチ　スイッチを押してもスイッチ(緑)が点灯しない場合は、お買いあげ販売店で点検を受けてください。

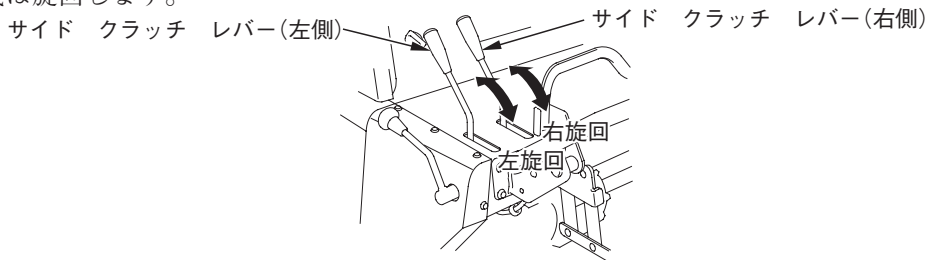
駐車ブレーキ　レバー

本機を駐車するときに操作します。駐車側に駐車ブレーキ　レバーを引くとサイド　クラッチ　レバーがロックされブレーキが働きます。駐車時には必ず駐車ブレーキ　レバーを“駐車”にしてください。

取扱いのポイント

走行中に駐車ブレーキ　レバーを操作しないでください。変速機に悪影響をあたえます。

サイド　クラッチ　レバー

本機の方向を変えるときに操作します。
旋回しようとする側のサイド　クラッチ　レバーを手前に引くと、引いた方向に本機は旋回します。

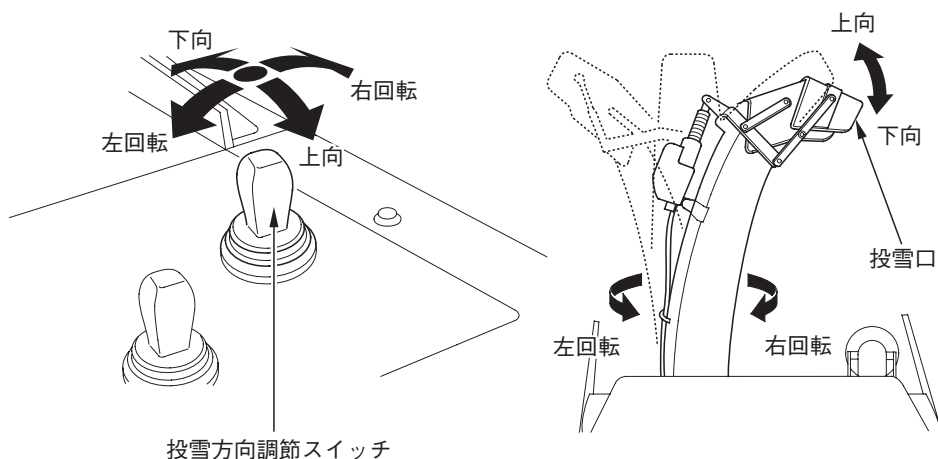
サイド　クラッチ　レバー(左側)
サイド　クラッチ　レバー(右側)
右旋回
左旋回

⚠警告

- 旋回するときは、十分スピードを落としてください。雪の上での作業は滑りやすく転倒するおそれがあります。
- サイド　クラッチ　レバーを操作するときは、周囲の安全を十分確認してください。また、旋回時は本機の位置が急激に変化します。ハンドルや操作パネルに体が触れないよう注意してください。思わぬ事故を引き起こすおそれがあります。

投雪方向調節スイッチ

投雪距離と方向を変えるときに操作します。

エンジン　スイッチを**“運転”**の位置にし、スイッチを操作することによって投雪口を上下、左右に無段階に調節することができます。

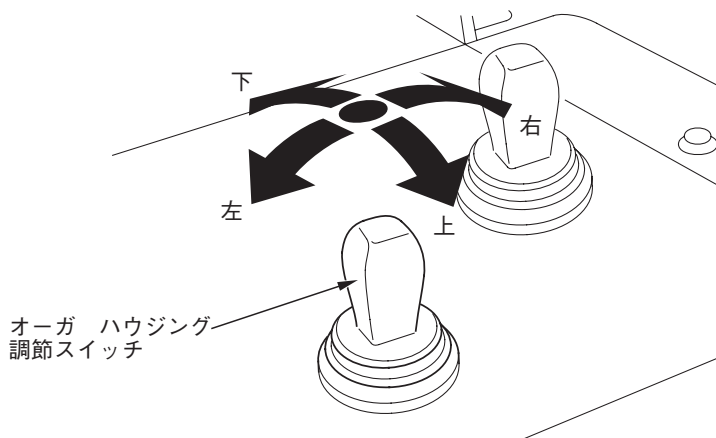
投雪方向調節スイッチはエンジンが運転しているときに操作してください。エンジン停止中に操作するとバッテリが消耗します。

取扱いのポイント

調節スイッチを操作したまま保持しないでください。モータが過熱して保護装置が働き、投雪口が動かなくなります。このときは操作をやめ、しばらく待ってから再度操作してください。

オーガ　ハウジング調節スイッチ

除雪部の高さと左右の傾きを調節するときに操作します。

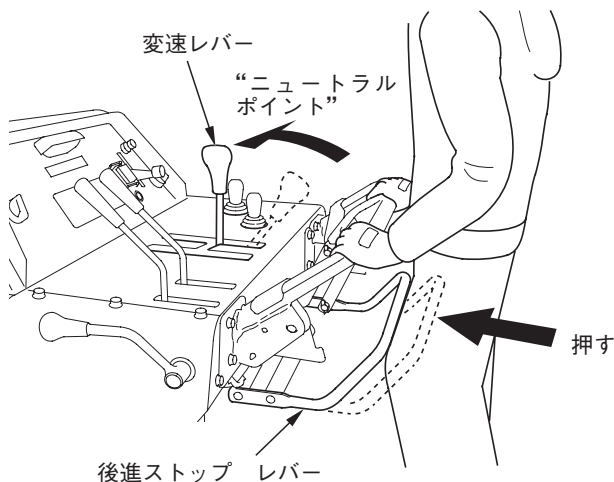
除雪部を上下、左右無段階に調節することができます。(45、49頁参照)

オーガ　ハウジング調節スイッチはエンジンが運転しているときに操作してください。エンジン停止中に操作するとバッテリが消耗します。

取扱いのポイント

調節スイッチを操作したまま保持しないでください。モータが過熱し保護装置やモータ故障の原因になり、除雪部の調節ができなくなります。スイッチの操作はオーガ　ハウジングが上限または下限になったらお止めください。オーガ　ハウジングは上限から下限まで約５秒で動きます。

調節スイッチの使用頻度が高い場合、オーガ　ハイトモータ表示灯が点滅、および点灯してお知らせします。(26頁参照)

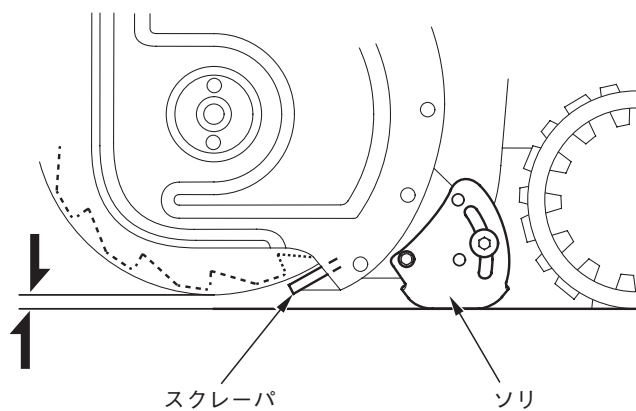
後進ストップ装置

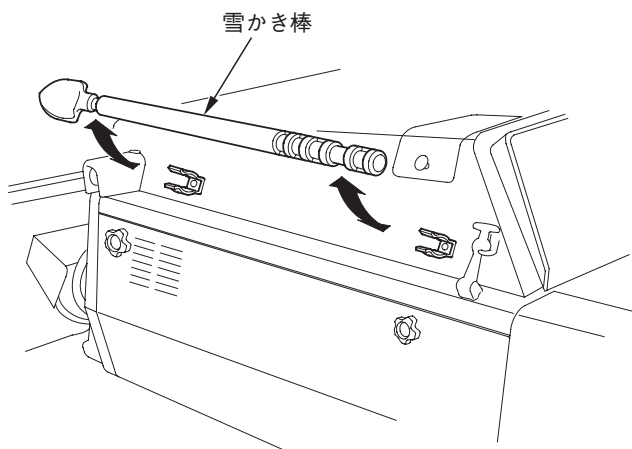
後進ストップ装置は後進中に本機を減速･停止させる場合に使用できます。
後進ストップ　レバーを押すと変速レバーが**“ニュートラル　ポイント”**方向に戻され、本機の後進速度が減速します。さらに、後進ストップ　レバーを押すと停止し、押し切ると微速前進になります。

・本機を完全に停止させる場合は、走行クラッチ　レバーを「切」位置にしてください。

取扱いのポイント

後進ストップ　レバーはバンパではありませんので絶対に乗ったり、ロープをかけたりしないでください。故障する原因になります。

ソリ、スクレーパ

除雪する路面の状態に合わせて調節してください。ソリは除雪部と路面との高さを決め、スクレーパは除雪面をならします。調節のしかたは、43 頁を参照してください。

雪かき棒

雪が除雪部や投雪口に詰まったときに使用します。
雪かき棒を使用した後は汚れを拭き取り、きれいにしてから必ず元の取付け位置にセットしてください。

シュート　カバー

投雪口に雪が詰まったときは、シュート　カバーを外して雪かき棒で詰まった雪を除去してください。(52頁参照)

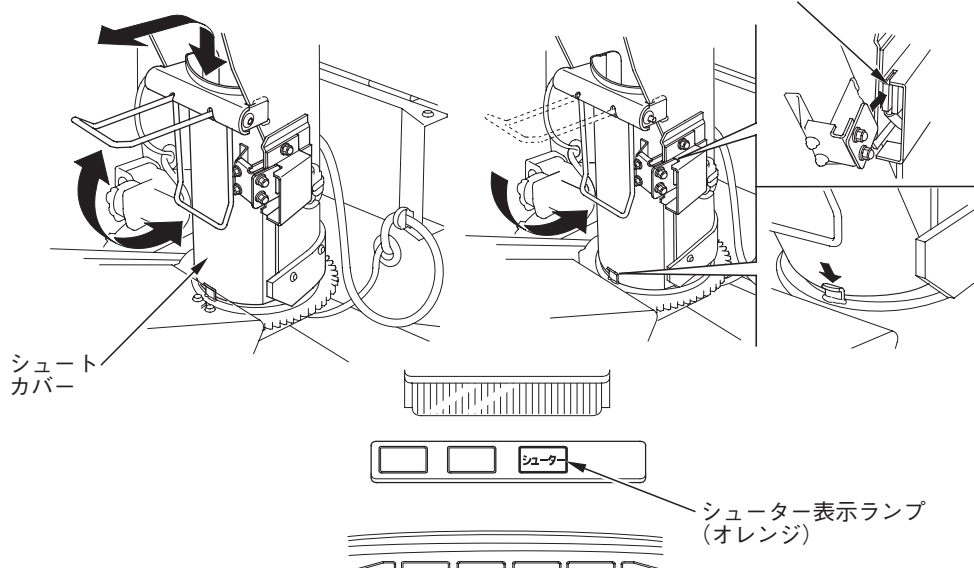
除去後、シュート　カバーを確実にセットしてください。

セットされていないと、シューター表示ランプ(オレンジ)が点灯し、エンジンが始動しない機構になっています。

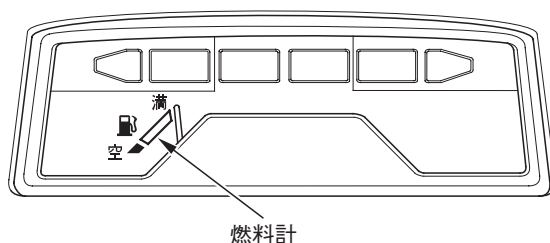
スイッチ(確実にセットしてください。)

シュート
カバー

シューター

シューター表示ランプ
(オレンジ)

燃料計

燃料の残量を示します。

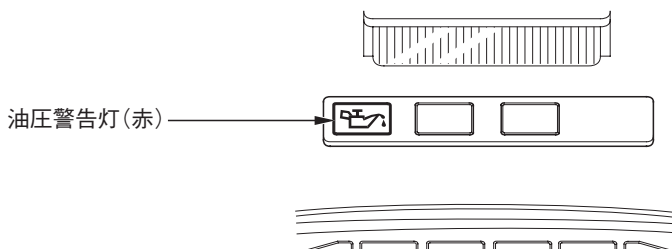
燃料計の針が“空”に近づいたら早目に燃料を補給してください。

油圧警告灯

エンジンの潤滑系統に異常が発生したときに点灯します。

エンジン　スイッチを“**運転**”にすると点灯し、エンジン始動後に消灯すれば正常です。

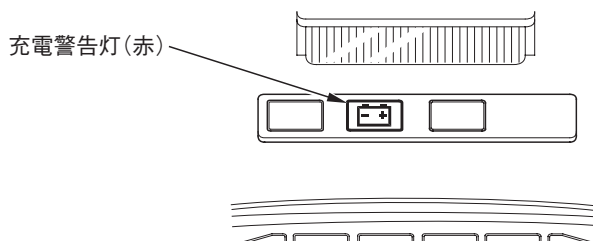
・万一、運転中に点灯した場合は、本機を安全な場所に移動してエンジンを停止し、エンジン　オイル量を点検してください。

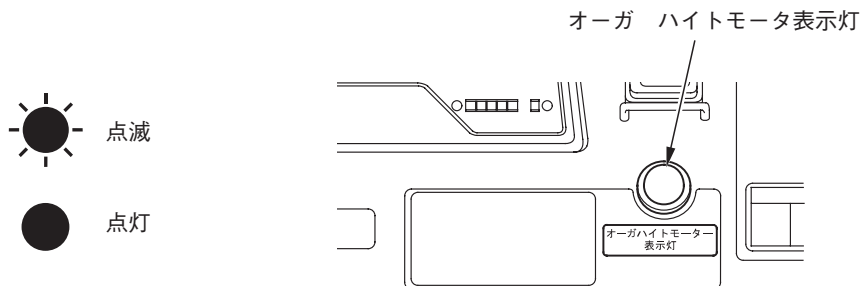
取扱いのポイント

エンジン オイル量が正常で、運転中に警告灯が点灯する場合は、除雪作業を中止してください。お買いあげ販売店で点検を受けてください。

充電警告灯

エンジンの充電系統に異常が発生したときに点灯します。

エンジン　スイッチを“**運転**”にすると点灯し、エンジン始動後に消灯すれば正常です。

・運転中に点灯した場合は、本機を安全な場所に移動して、エンジンを停止し、お買いあげ販売店で点検を受けてください。

オーガ　ハイトモータ表示灯

オーガ　ハイトモータ表示灯はオーガ　ハウジングの上下調節を使い過ぎると、点滅および点灯します。

点滅した場合

オーガ　ハウジングの上下調節を使い過ぎていることを示しています。

点滅した状態で上下調節を続けると、オーガ　ハイトモータの保護機能が働き、上下調節できなくなることがあります。

- 上下調節の使用頻度を落として除雪作業してください。
  適正頻度で上下調節を行えば消灯します。

- エンジンを停止して点滅を解除しないでください。
  エンジンを停止して解除した場合、オーガ　ハイトモータ表示灯が正しく作動しないことがあります。

点灯した場合

オーガ　ハウジングの上下調節ができません。

点灯の解除は、オーガ　ハウジングの上下調節を行わず10秒間お待ちください。

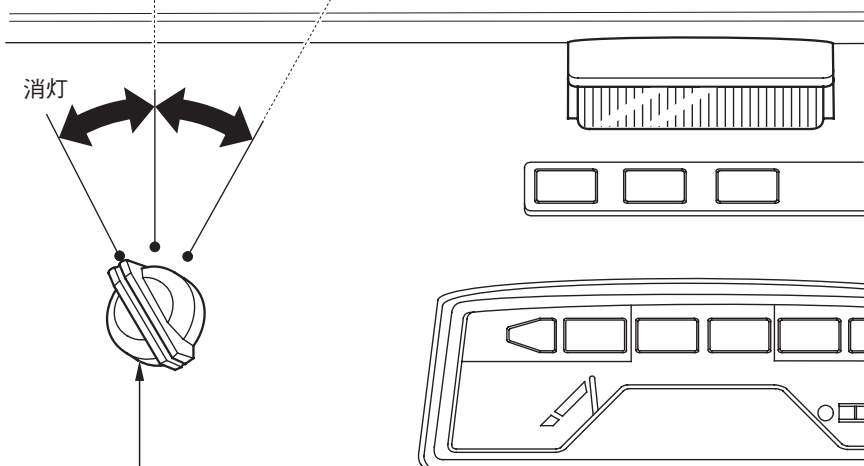
点灯の解除後は上下調節の使用頻度を落としてください。再び点灯する可能性があります。

前照灯スイッチ

前照灯(作業灯)を点灯、消灯するときに操作します。

前照灯スイッチを回すと、ボンネット上の前照灯およびコンパネ　ライトが点灯し、更に回すとシュート上の作業灯、コンパネ　ライトおよびボンネット上の前照灯が点灯します。

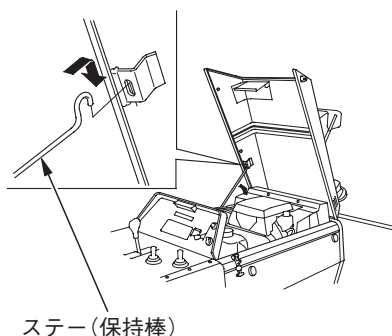
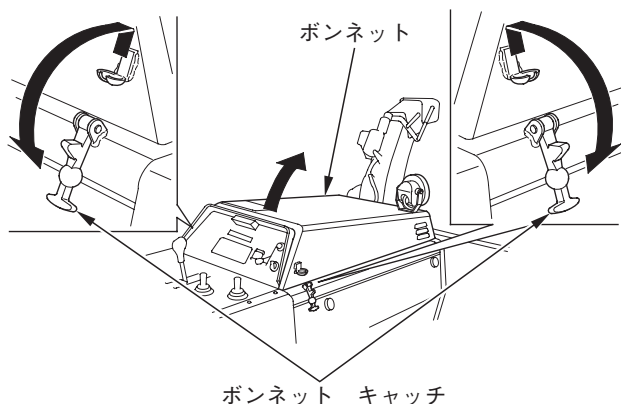
取扱いのポイント

前照灯は、エンジン運転中に使用してください。エンジン停止中に使用するとバッテリが消耗します。

ボンネットの開けかた、閉めかた

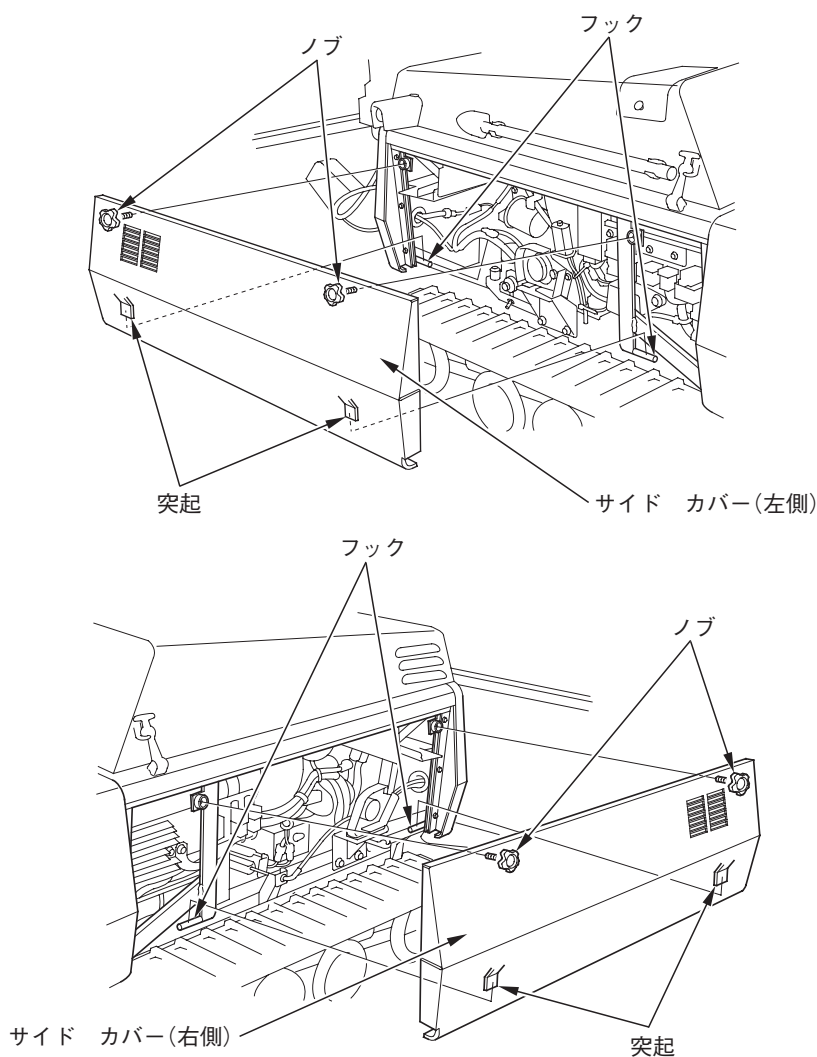
ボンネット　キャッチを上に引き外し、ボンネットを引き上げステー(保持棒)を確実にかけて固定します。

閉めるときは、ステーを外しクランプに納め、ボンネットを静かに閉じ、ボンネット　キャッチを上に引き上げ金具に確実にセットしてください。

⚠注意

シュートを前方方向に向けてボンネットを開けてください。
シュートを左右に大きく振った状態でボンネットを開けるとボンネットの前端とシュートまたはハーネスが干渉する場合があります。

サイド　カバーの取外し、取付け

取外しは、ノブを左に回しゆるめ、カバー上部を少し外側にたおし、カバーを上に引き上げサイド　カバーを取外します。

取付けは、サイド　カバー下の突起部をフレームのフックに合わせて、サイドカバーを取付けノブを右に回して確実に締付けます。

エンジンをかける前に点検しましょう

⚠警告

点検は平坦な場所でエンジンを水平にしエンジンを止めて行ってください。誤ってエンジンがかからないように、エンジン　スイッチ　キーを抜いて行ってください。

燃料の点検

点検

エンジン　スイッチ　キーを"運転"にしてから燃料計を確認してください。
燃料計の針が"空"に近づいたら、早めに燃料を補給してください。燃料を使いきってしまった場合は、始動に多少時間がかかる場合があります。

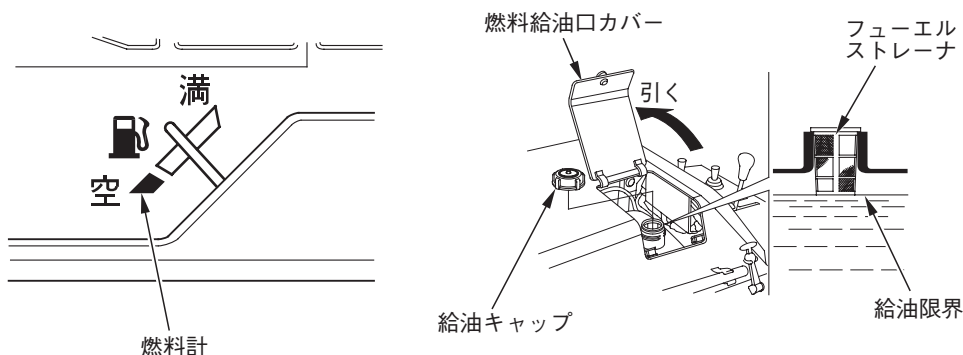
取扱いのポイント

- 携帯缶から給油する場合はフューエル　ストレーナを外さずに給油してください。
- ガソリンスタンドで給油する場合はフューエル　ストレーナを外して給油してください。
- 給油限界以上に給油しないでください。

補給

使用燃料：無鉛レギュラー　ガソリン

1. 燃料給油口カバーのノブを上に引いてください。
2. 給油キャップを外し、図の位置（給油限界）を超えないように補給します。
3. 補給後、給油キャップを確実に締付け燃料給油口カバーを閉めてください。

⚠警告

ガソリンは非常に引火しやすく、また気化したガソリンは爆発して死傷事故を引き起こすおそれがあります。

燃料の補給は

- エンジンを停止してください。
- 換気の良い場所で行ってください。
- 火気を近づけないでください。
- 身体に帯電した静電気を除去してから給油作業を行ってください。
  静電気の放電による火花により、気化した燃料に引火しやけどを負うおそれがあります。
  本機や給油機などの金属部分に触れると、静電気を放電することができます。
- 燃料はこぼさないように補給してください。万一こぼれたときは布きれなどで完全にふき取り火災と環境に注意して処分してください。
- 燃料は注入口の口元まで入れず給油限界位置を超えないように補給してください。入れすぎるとタンク内の燃料が燃料給油キャップからにじみ出ることがあり危険です。

取扱いのポイント

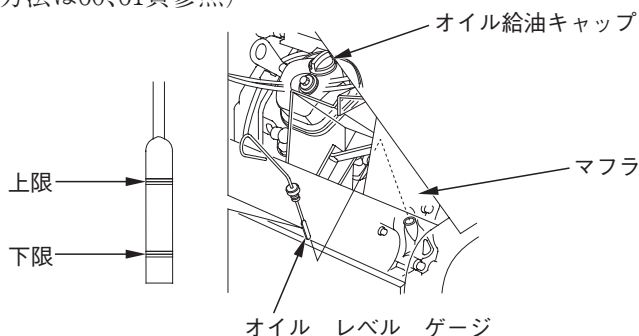
- 水や不純物が混ざっていない、新しいガソリンを使用してください。
  ガソリンは自然劣化しますので30日に１回、定期的に新しいガソリンと入れ換えてください。
  劣化したガソリンを使用するとエンジン故障の原因となります。
- 除雪時に燃料を補給する場合は、燃料タンク内に雪が入らないように注意してください。燃料タンク内に雪が入ると、エンジン不調の原因になります。
- 必ず無鉛レギュラー　ガソリンを補給してください。高濃度アルコール含有燃料を補給すると、エンジンや燃料系などを損傷する原因となります。
- 軽油、灯油や粗悪ガソリンなどを補給したり、不適切な燃料添加剤を使うと、エンジンなどに悪影響をあたえます。

エンジン　オイルの点検

点検

⚠警告

エンジン　オイルの点検はエンジンやマフラが冷えているときに行ってください。エンジン停止直後は、エンジン本体やマフラの温度が高くなっており、触れるとやけどをするおそれがあります。万一、エンジンが暖まっている状態で点検する場合は、丈夫な手袋をしてマフラに触れないように注意して行ってください。

1. エンジンを水平にしてオイル　レベル　ゲージの周りを清掃します。
2. オイル　レベル　ゲージを外し、ゲージ部のオイルを拭取ります。
3. オイル　レベル　ゲージを図の向きで押込み、オイル　レベル　ゲージの上限までオイルがあるか点検します。不足している場合は新しいオイルをオイル　レベル　ゲージの上限まで補給します。汚れや変色が著しい場合は交換してください。（交換時期、方法は60、61頁参照）

取扱いのポイント

エンジン　オイルの点検はエンジン始動前に行ってください。エンジン停止直後は正確な量を測定できません。エンジン停止後に点検する場合は、しばらく待ってから測定してください。

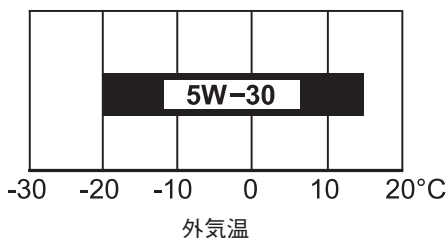
補給

オイル給油キャップを外し、新しいオイルをオイル　レベル　ゲージの上限まで補給します。補給後オイル　レベル　ゲージ、給油キャップを確実に取付けます。

推奨オイル：

（4サイクル　ガソリン　エンジン　オイル）

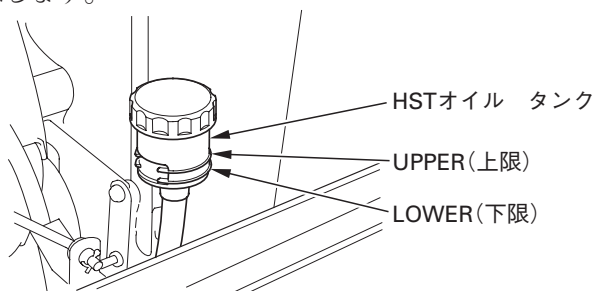
Honda純正汎用寒冷地オイル（SAE 5W-30）またはAPI分類SE級以上のSAE　5W-30エンジン　オイルをご使用ください。

汚れや変色が著しい場合は交換してください。（交換時期、方法は60、61頁参照）

取扱いのポイント

オイル給油キャップは確実に締付けてください。締付けがゆるいとオイルが漏れることがあります。

HST(無段変速機)オイルの点検

点検

HSTオイルの点検は除雪機が冷えているときに行ってください。
ボンネットを開けてHSTオイル　タンクのUPPER(上限)とLOWER(下限)の間にオイルがあるか確認します。

補給

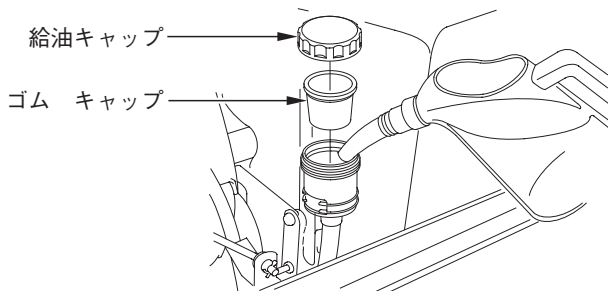
補給はボンネットを開けて行います。

1. 給油キャップと内部のゴム　キャップを外して、新しいHSTオイルをUPPER(上限)まで補給します。
2. 補給後、確実にゴム　キャップと給油キャップを取付けます。
   指定オイル：（4サイクル　ガソリン　エンジン　オイル）
   Honda純正汎用寒冷地オイル(SAE 5W-30)またはAPI分類SE級以上のSAE 5W-30エンジン　オイルをご使用ください。

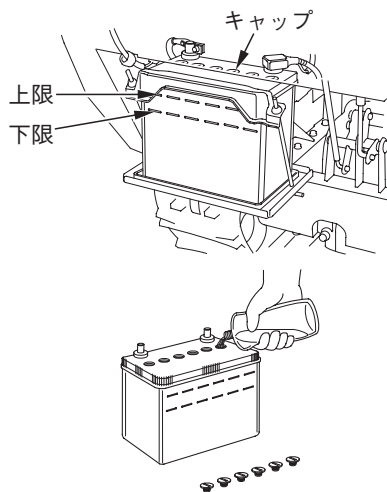
取扱いのポイント

- 補給時タンクの中に、ゴミ等の異物が入らないよう十分注意してください。異物が混入すると変速機が故障する原因になります。
- 変速機オイルが著しく減少している場合は、直ちに作業を中止してお買いあげ販売店へご連絡ください。

バッテリの点検

点検

バッテリの液面が各槽とも上限(UPPER LEVEL)にあるか点検してください。
同時にキャップの通気孔のつまりを点検してください。

補給

バッテリ液が上限にないときはバッテリを外し、キャップを外して、バッテリ補充液(蒸留水)を上限(UPPER LEVEL)まで補給します。バッテリの取外し、取付けは72頁を参照してください。

⚠警告

- バッテリを取扱うときはショートによる火花や火気に注意してください。バッテリからは可燃性のガスが発生しているので爆発の危険があります。
- バッテリ液面が下限以下のままで使用または充電はしないでください。バッテリ液面が下限以下のままで使用または充電をするとバッテリの劣化を早めたり、破裂(爆発)の原因となるおそれがあります。破裂(爆発)の場合は、重大な傷害に至る可能性があります。
- バッテリの結線は正確に行ってください。接続時は⊕側から接続し、外すときは⊖側から外してください。工具の接触などでショートする場合があります。
- バッテリ液は希硫酸です。目や皮膚につくとその部分が侵されますので十分注意してください。万一、付着したときはすぐに多量の水で少なくとも15分以上洗浄し、専門医の診断を直ちに受けてください。

取扱いのポイント

- 長時間使用しない場合には、⊖バッテリ端子を外しておいてください。
  長期間保管中は、6か月に1度補充電を行ってください。
- バッテリ補充液(蒸留水)を入れすぎると電解液がこぼれ金属を腐食させる原因となります。上限(UPPER LEVEL)以上入れないでください。万一バッテリ液をこぼしたときには、必ず水洗いをしてください。

オーガ／ブロア　ロック　ボルトの点検

オーガ／ブロア　ロック　ボルトのゆるみ、折れを点検します。

ロック　ボルトは、石のかみ込みなどの異常な負荷が加わったときに、本機の損傷を防ぐために折れるしくみになっています。

もし折れている場合は、70 頁の手順に従って交換してください。

走行クラッチ　レバー・除雪クラッチ　スイッチ・後進ストップ装置の点検

走行クラッチ　レバー、除雪クラッチ　スイッチ、後進ストップ装置が正しく作動するか点検します。異常がある場合は直ちにお買いあげ販売店へ連絡し、点検・整備を受けてください。

⚠警告

これらの点検はエンジンを始動し、本機やオーガを動かして点検します。
点検する前に本機の周囲に人や障害物がないことを確認してください。また投雪口が、人や窓ガラスなどの方向に向いていないことを確認してください。

- 走行クラッチ　レバーの点検

①本機を平坦な場所に駐車し、駐車ブレーキ　レバーが**“駐車”**、変速レバーが**“N”**（**中立**）の位置になっていることを確認します。

②エンジンを始動し、エンジン回転調節レバーを**“低速”**の位置にします。

③走行クラッチ　レバーを握ります。

④駐車ブレーキ　レバーを**“解除”**の位置にし、変速レバーを**“低速前進”**の方向へ動かします。

本機が低速で前進すれば正常です。

⑤走行クラッチ　レバーを放します。本機が停止することを確認します。

⑥エンジンを停止し、変速レバーを“N”(中立)の位置に戻し、駐車ブレーキ　レバーを“駐車”の位置にします。

• 除雪クラッチ　スイッチの点検

①駐車ブレーキ　レバーが“駐車”、変速レバーが“N”(中立)の位置になっていることを確認します。

②エンジンを始動し、エンジン回転調節レバーを“低速”の位置にします。

③除雪クラッチ　スイッチを押します。(スイッチが点灯：緑)オーガが回転することを確認します。

④除雪クラッチ　スイッチを放します。(スイッチが消灯)オーガの回転が停止することを確認します。

⑤走行クラッチ　レバーを握ります。

⑥除雪クラッチ　スイッチを押します。(スイッチが点灯：緑)スイッチを放してもオーガが回転していることを確認します。

⑦走行クラッチ　レバーを放します。(スイッチが消灯)オーガの回転が停止することを確認します。

⑧エンジンを停止します。

• 後進ストップ装置の点検

①本機を平坦な場所を選んで駐車し、駐車ブレーキ　レバーを“駐車”、変速レバーが“N”(中立)の位置にして、エンジンを停止します。

②変速レバーを“後進側”いっぱいの位置へ動かします。

③後進ストップ　レバーを押します。レバーがスムーズに動くことを確認し、変速レバーが“ニュートラル　ポイント”の位置に戻れば正常です。
レバーが異常に重たい場合は(参考　約196 N(20 kgf)以上)お買いあげ販売店にお申し付けください。

その他の点検

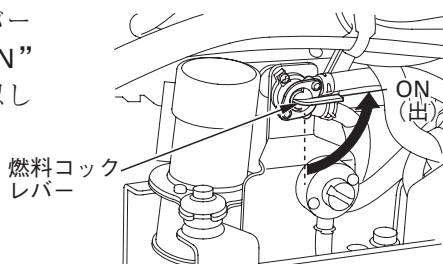
次の点検も忘れずに行ってください。

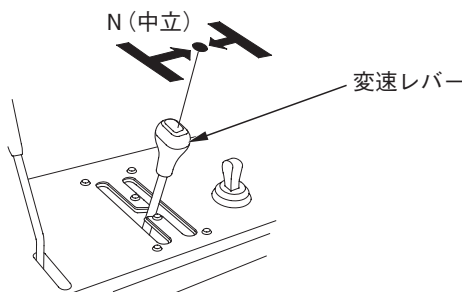
1. 各部の締付け、ゆるみ、ガタはないか
2. 各部の作動状態
3. 異常箇所……前日悪かった所はないか

エ ン ジ ン の か け か た

⚠警告

- 屋内や換気の悪い場所では、エンジンをかけないでください。有害な一酸化炭素がたまってガス中毒を引き起こすおそれがあります。
- エンジンは平坦な場所で始動してください。急な坂道で変速レバーを“N”（中立）の位置にすると本機が空走する場合があります。

エンジン始動前に左側サイド　カバーを開き、燃料コック　レバーが“ON”（出）の位置になっていることを確認してください。

平坦路でのエンジンのかけかた

1. 駐車ブレーキ　レバーが、**“駐車”**の位置になっていることを確認してください。
2. 変速レバーが“N”（中立）の位置にあることを確認します。

3. エンジン　スイッチを**“運転”**の位置にします。除雪クラッチ　スイッチが消灯していることを確認してください。インジケータの表示ランプは、数秒間点灯し、消灯します。

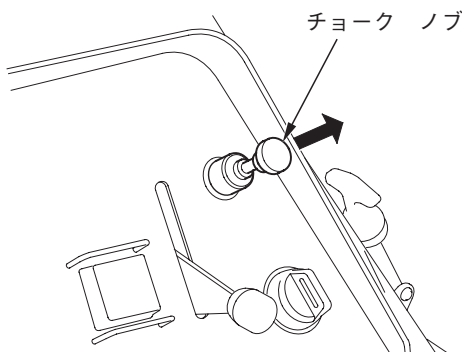
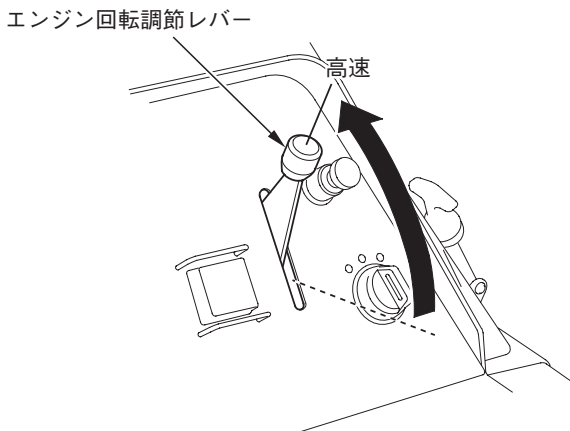
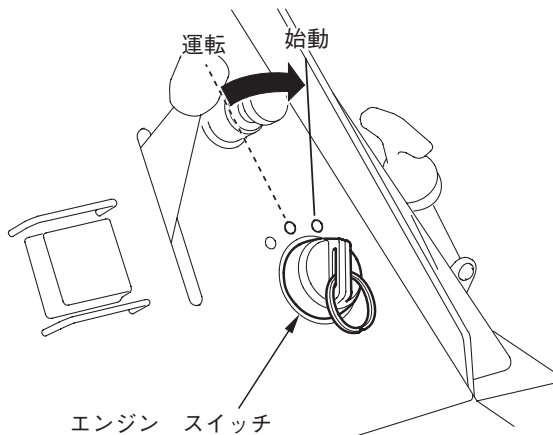
取扱いのポイント

走行クラッチ、除雪クラッチが「入」になっているとエンジンがかかりません。

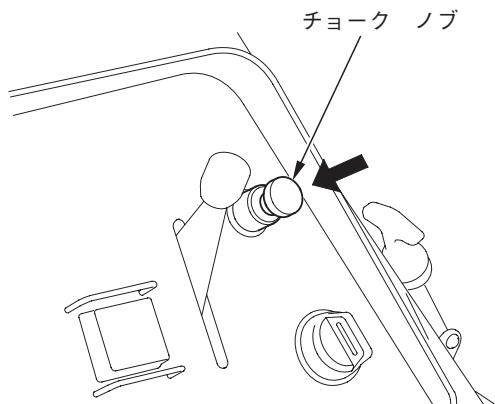
4. シュート　カバーが確実に取り付けられていること、後進ストップ　レバーが押されていないことを確認してください。異常がある場合は、シューター表示ランプ(オレンジ)が点灯します。

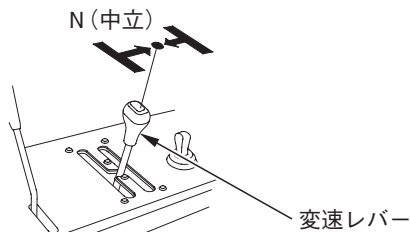
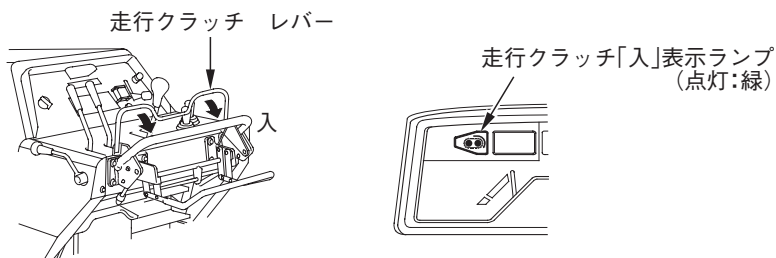
取扱いのポイント

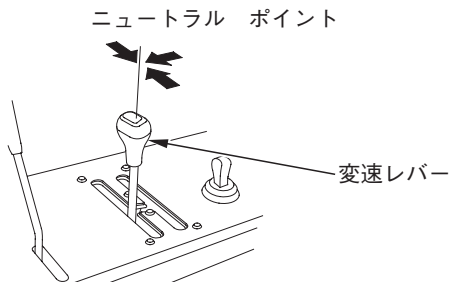
シュート　カバーが外れているとエンジンはかかりません。

5. チョーク　ノブをいっぱいに引いてください。

6. エンジン回転調節レバーを**“高速”**の位置にします。

7. エンジン　スイッチを**“始動”**の位置まで回し､スタータをまわします。
エンジンが始動したらスイッチから手を離してください。**“運転”**の位置に戻ります。

取扱いのポイント

スタータを回して5秒以内でエンジンが始動しないときは､10秒ほど間をおいてから再始動してください。

8. 始動後､エンジン回転が安定するのを確認しながらチョーク　ノブを徐々に戻し､暖機運転を行ってください。

9. 暖機運転中に次の手順でHSTオイルを暖めてください。

−1. 駐車ブレーキ　レバーが**“駐車”**の位置になっていること、変速レバーが**“N”（中立）**になっていることを、もう一度確認してください。

−2. 走行クラッチ　レバーを握ってください。走行クラッチ「入」表示ランプが点灯（緑）することを確認してください。

万一斜面で停止したときのエンジンのかけかた

駐車ブレーキ　レバーを**“駐車”**の位置にし、変速レバーを低速側のニュートラルポイント（走行クラッチを「入」にしても本機が動かない位置）にしてエンジンを始動してください。駐車ブレーキ　レバーが**“解除”**の位置で、変速レバーを**“N”（中立）**の位置にすると、本機が空走することがあります。

運　転　操　作　の　し　か　た

除雪をする前に必ず“安全にお使いいただくためにこれだけはぜひ守りましょう”の項目を良くお読みになり除雪作業に取掛かってください。

⚠注意

- 除雪作業をするときは、手袋、帽子、防寒服、防寒靴などの防寒用の身支度をしてください。
- 本機の操作を行う場合には本機後方中央部に立ち、必ず両手でハンドルを持ってください。

取扱いのポイント

使用中に音、におい、振動などで異常を感じたら直ちにエンジンを停止し、お買いあげ販売店にお申しつけください。

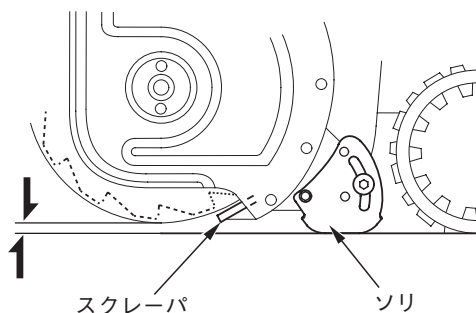
除雪作業は雪質など雪の状態に影響されます。最適な除雪作業をするため、必要に応じてソリ、オーガ　ハウジング高さを調節してください。
オーガ　ハウジング高さの調節は調節基準表を目安にしてください。(46 頁参照)

1.ソリ、スクレーパの調節

⚠警告

ソリ、スクレーパを調節するときは、必ずエンジンを停止し、誤ってエンジンが始動しないようにエンジン　スイッチ　キーを抜いて行ってください。

除雪する路面の雪の状態に合わせて、路面との高さを調節します。

1. 本機を平坦な場所に置き、オーガ　ハウジング調節スイッチを操作して、除雪部を水平状態のまま接地させます。除雪部を下げ過ぎると、クローラ前部が浮上ります。クローラ前部が浮上らないように、除雪部を接地させてください。
2. エンジンを停止し、エンジン　スイッチ　キーを抜きます。
3. 除雪する路面の状態に合わせて、ボルトをゆるめてソリとスクレーパの高さを調節します。

取扱いのポイント

硬雪の段切り作業等でオーガの食込みが悪いときは、ソリを外してください。

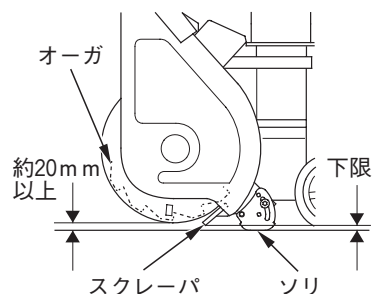
- ソリは左右同じ高さに調節してください。
- 調節後は必ずボルトを確実に締付けてください。
- 段切作業用に調節した状態で路面出し作業を行なわないでください。除雪部に悪影響をあたえます。

ソリ、オーガの調整はこんなときに行います。

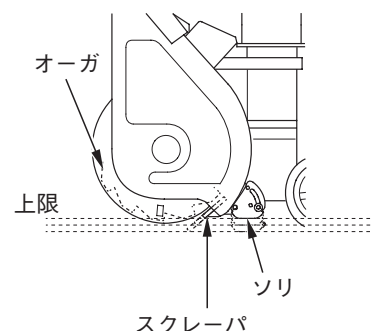
- 回転するオーガが路面に接触して困る場合:
- 砂利などが多い路面を除雪する場合:

オーガを路面から約20mm以上持ち上げた状態で、ソリを固定します。

スクレーパを調整代の下限まで下げた位置に固定します。

砂利を巻き込まないために、雪を残して作業します。

- 屋根から落ちた固い雪などを崩したい場合:
- 締まった根雪などで、本機が食い込まず持ち上ってしまう場合:

ソリとスクレーパを調整代の上限まで持ち上げて固定します。

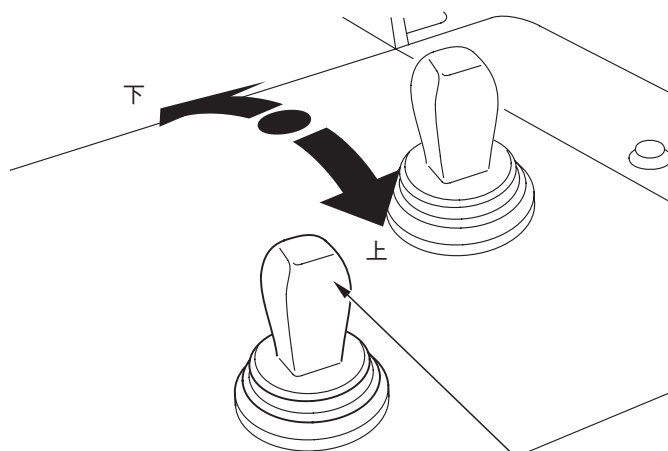
＊この場合は、路面にオーガが接触して路面を傷つけたり石飛びのおそれがありますので、注意してご使用ください。
また、一般的な条件で使用する場合は、元に戻してから使用してください。

標準位置(工場出荷状態)は、次のように調整されています。

オーガと路面との隙間	15－20 mm
スクレーパと路面との隙間	10－15 mm

2.オーガ　ハウジング高さの調節

除雪部の高さを無段階に調節することができます。

路面の状態に応じて除雪部を接地させるか、さらにくい込ませるかあるいは少し浮かせるかを決め、オーガ　ハウジング調節スイッチで高さを調節します。

オーガ　ハウジング調節スイッチを“下”にすると除雪部は下がり“上”にすると上がります。スイッチから手を放すとその位置で除雪部が停止します。

取扱いのポイント

調節スイッチを操作したまま保持しないでください。モータが過熱し保護装置やモータ故障の原因になり、除雪部の調節ができなくなります。スイッチの操作はオーガ　ハウジングが上限または下限になったらお止めください。オーガ　ハウジングは上限から下限まで約5秒で動きます。

調節スイッチの使用頻度が高い場合、オーガ　ハイトモータ表示灯が点滅、および点灯してお知らせします。(26頁参照)

調節基準表(目安)

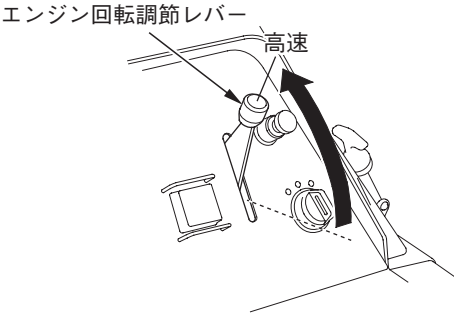
	※固雪除雪	一般除雪	凹凸路面除雪	仕上げ除雪	段切り(くい込み)
除雪部高さ	「くい込み」位置	「接地」位置	「少し浮き」または「接地」位置	「くい込み」または「接地」位置	「接地」または「少し浮き」位置

※硬い地面が出た条件での作業時では除雪部に悪影響を与えるおそれがありますので必ず雪上で使用されるようにお願い致します。

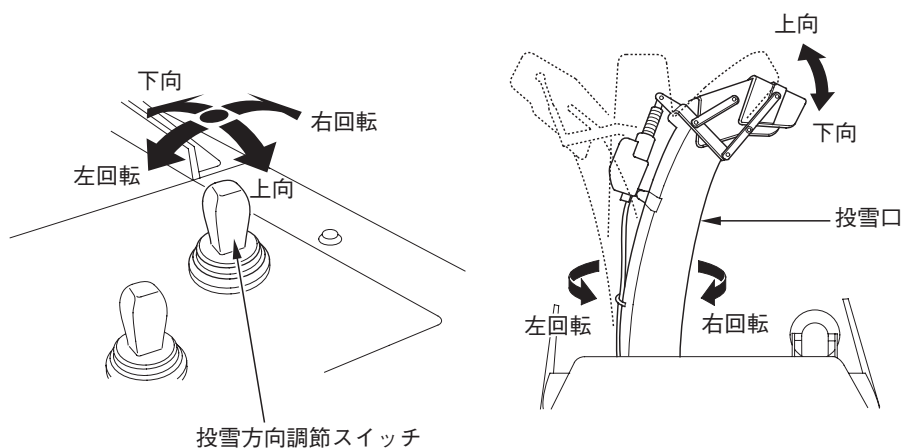
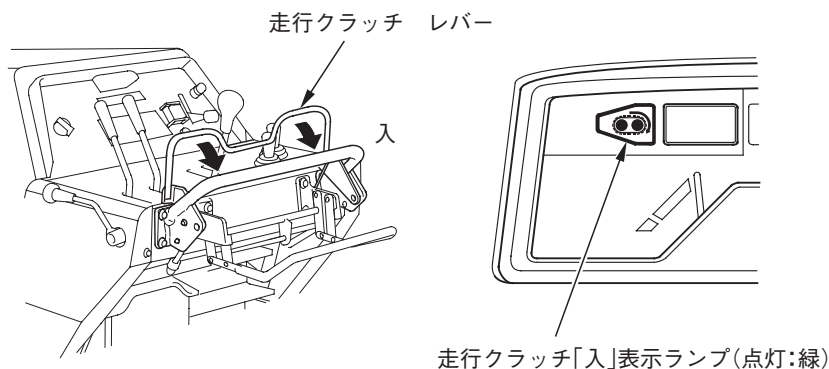
3.始動

始動については38頁～41頁を参照してください。

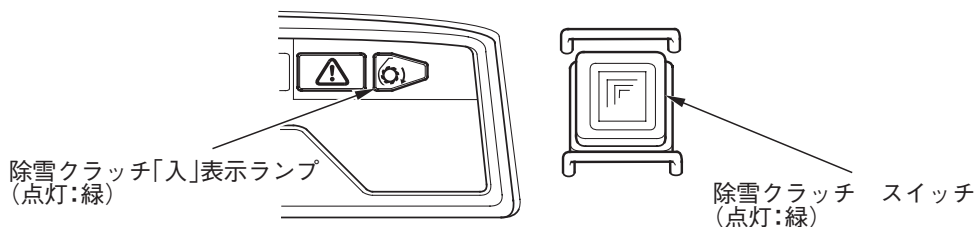
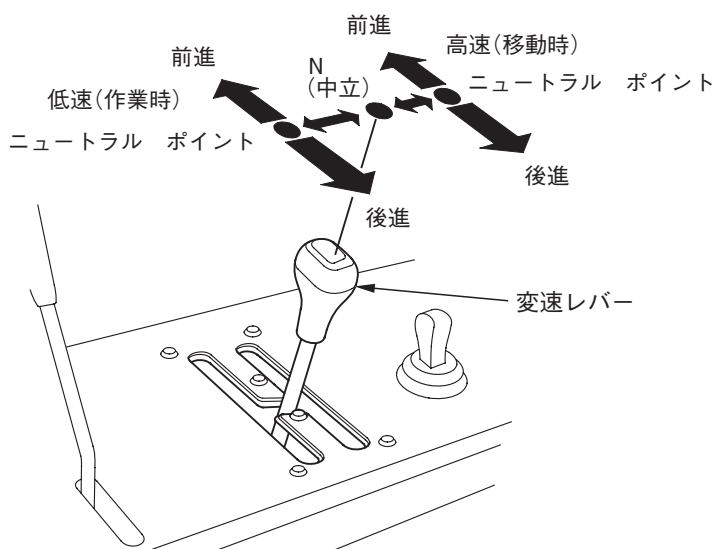
4.運転操作

−1. 変速レバーが“N”(中立)の位置にあることを確認し、エンジン回転調節レバーを“高速”にあわせます。

−2. 投雪方向調節スイッチで投雪距離と方向を調節します。

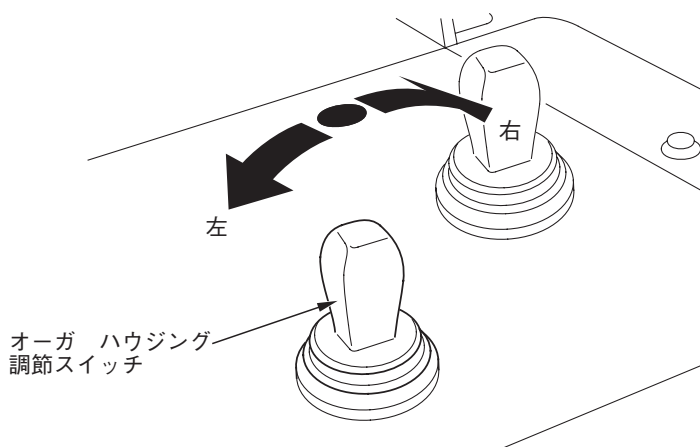
⚠注意

- 投雪距離や方向を変えるときには、人や建物などに注意して行ってください。
- ボンネットを開けた状態で投雪方向調節スイッチを動かさないでください。ボンネット前端とシュートまたはハーネスが干渉する場合があります。

−3. 変速レバーが“N”(中立)の位置にあることを確認した後に、走行クラッチ　レバーを握ります。(走行クラッチ「入」表示ランプが点灯します。)

−4. 除雪クラッチ　スイッチを押し(スイッチが点灯:緑)除雪部を回転させます。
除雪クラッチ「入」表示ランプ(緑)が点灯します。

⚠注意

除雪クラッチ　スイッチを押す、および走行クラッチ　レバーを握ると本機が作動します。周囲の安全を十分に確認してください。

−5. 移動時は高速側、作業時は低速側に変速レバーを操作し雪質、積雪量等条件に合わせて変速レバーの位置を選び車速を設定します。

5.除雪部の傾き調節

除雪作業中本機が傾いてきたときは、オーガ　ハウジング調節スイッチで除雪部の傾きを調節します。

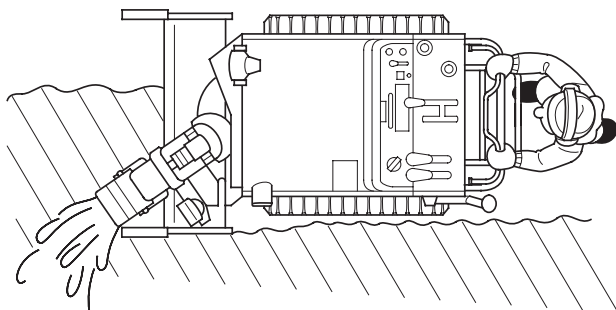
本機が右側に傾いたとき ‥‥オーガ　ハウジング調節スイッチを左側に倒します。
本機が左側に傾いたとき ‥‥オーガ　ハウジング調節スイッチを右側に倒します。

取扱いのポイント

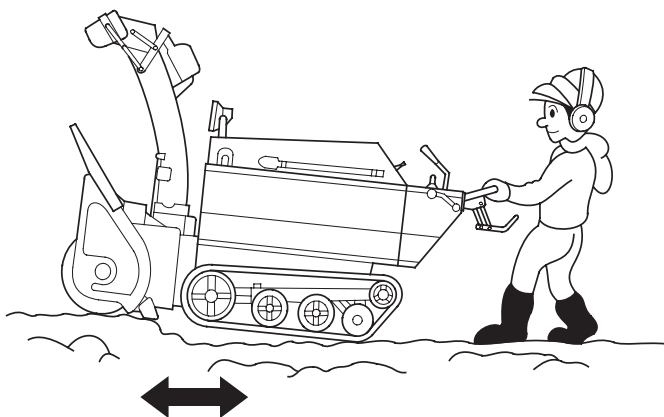
調節スイッチを操作したまま保持しないでください。モータが過熱し保護装置やモータ故障の原因になり、除雪部の調節ができなくなります。このときは操作をやめ、しばらく待ってから再度操作してください。

6.除雪のしかた

除雪作業はエンジンの回転を落さず行うことが重要です。そのためには雪による負荷をさけるため、変速レバーは低速(作業用)で行ってください。低速の位置にしてもエンジン回転が落ちる場合は次の要領を参考にして、除雪作業を行ってください。

• 除雪幅を狭くする方法

重い雪、深い雪や固い雪の場合は、できるだけ遅い速度で除雪してください。(エンジン回転が低下して投雪距離が2～3 mのような状態は負荷のかけすぎです。)また、このような場合除雪部に掛かる雪幅を狭くして行ってください。

• 前後進除雪の方法

固くなった雪などで除雪部が乗り上げるような場合には、前、後進を繰り返して除雪してください。

・段切除雪の方法

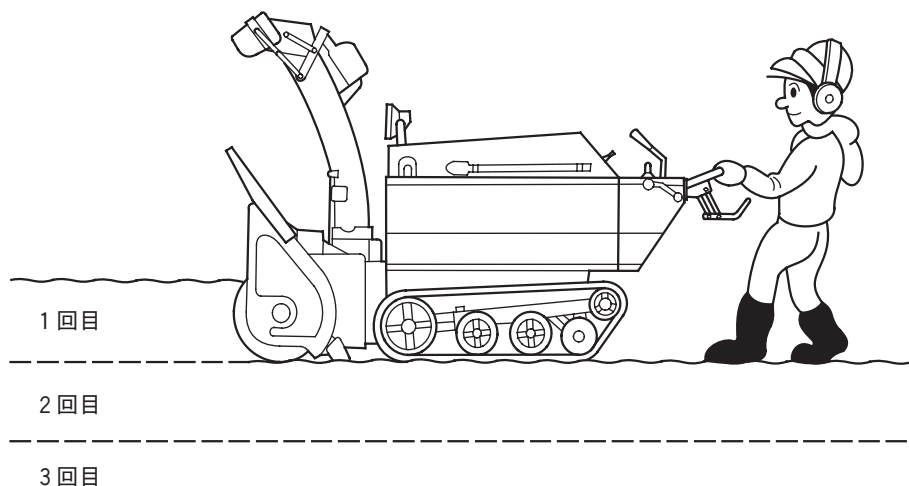
積雪量が多く、除雪部よりも雪が多い場合などには段階的に除雪を行ってください。

1. のぼるときは、

　・オーガ　ハウジング調節スイッチを操作し、除雪部を少し上げます。

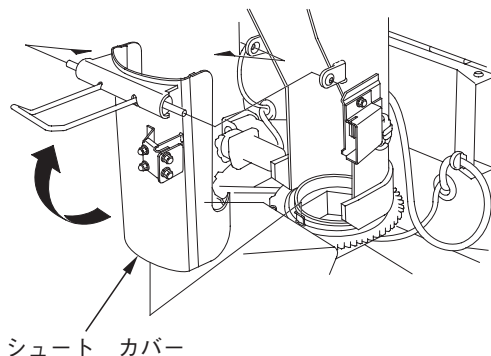
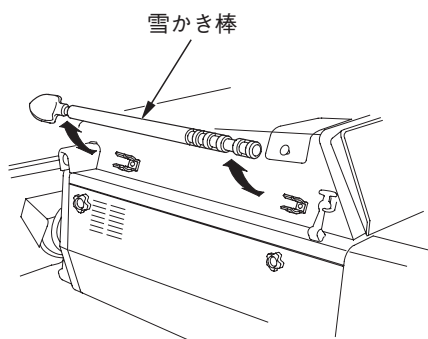
2. くいこませるときは、

　・オーガ　ハウジング調節スイッチを操作し、除雪部を少し下げます。

　・必要に応じて、ソリ、スクレーパの位置を調節します。(43頁参照)

● 投雪口に詰まった雪の除去

⚠警告

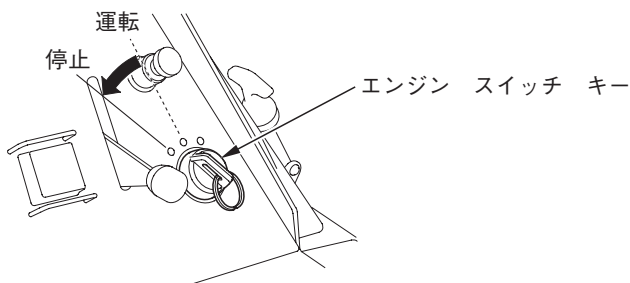
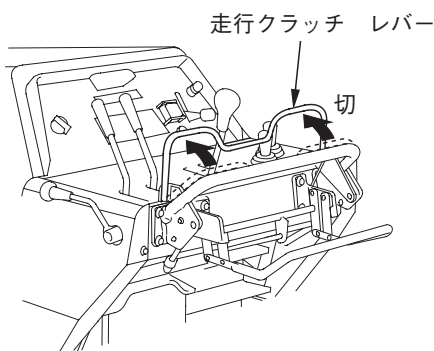
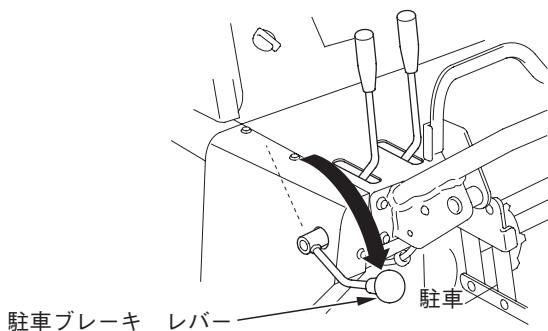
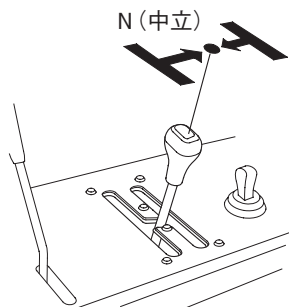
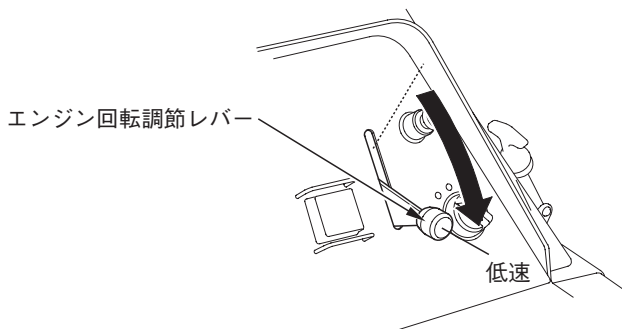
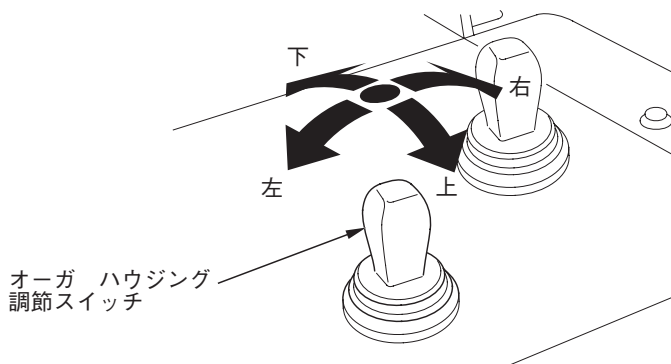
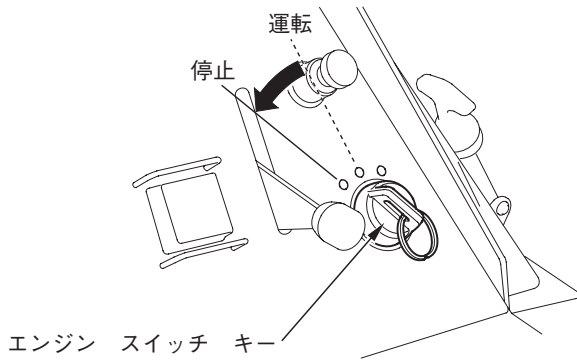
投雪口に詰まった雪を除去するときは、エンジンを停止し、誤ってエンジンが始動しないようにエンジン　スイッチ　キーを抜き、各回転部が完全に止まってから、必ず備え付けの雪かき棒を使って雪を取除いてください。
エンジンが回っているときは絶対に手を入れないでください。大ケガをするおそれがあります。

1. 除雪作業中、投雪口に雪が詰まったときは、シュート　カバーを外して雪かき棒で除去します。

2. シュート　カバー、雪かき棒は使用後、必ず元の位置にセットしてください。

取扱いのポイント

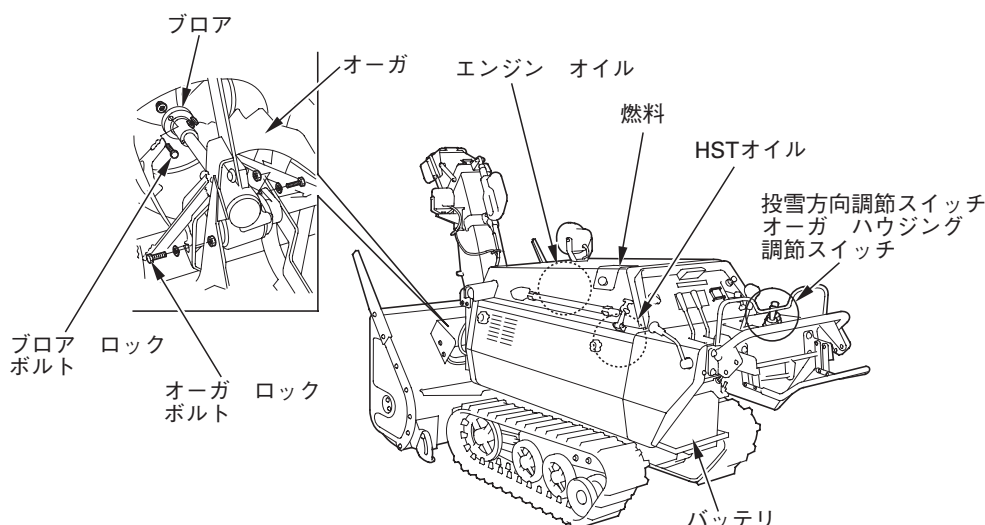
シュート　カバーが確実にセットされていないと、シューター表示ランプ（オレンジ）が点灯し、エンジンが始動しない機構になっています。

除　雪　機　の　止　め　か　た

● 緊急にエンジンを停止する場合
エンジン　スイッチを“停止”の位置にし、エンジン　スイッチ　キーを抜きます。

● 通常停止の場合
1. 走行クラッチ　レバーから手を離します。
走行が停止し、除雪部の回転が停止します。

2. 駐車ブレーキ　レバーを“駐車”の位置にします。

3. 変速レバーを“N”(中立)の位置にします。

4. エンジン回転調節レバーを“低速”にします。

5. オーガ　ハウジング調節スイッチを操作して除雪部を完全に路面へ接地させます。

6. エンジン　スイッチを“停止”の位置にして、キーを抜きます。

定期手入れを行いましょう

日常点検

いつも安心して使用するためには日常の点検整備が必要です。忘れずに自分自身で行ってください。

- エンジン　オイル……規定量入っているか。
  漏れはないか。
- HST(無段変速機)オイル……規定量入っているか。
  漏れはないか。
- 燃料……残量
- 各部の締付け……ゆるみ、がたはないか。
- バッテリ……バッテリ液の点検(35頁参照)
- ソリ……ソリの高さ調節(43頁参照)
- 投雪方向調節スイッチ、オーガ　ハウジング調節スイッチ……作動の確認。
- オーガ、ロック　ボルト、ブロア、オーガ　ハウジング等の損傷やゆるみについては、特に点検を行ってください。
- 前日までの異常箇所はなかったか。
- その他異常を感じたら、ただちにお買いあげ販売店へお申しつけください。

定期点検

お買いあげいただきました除雪機をいつまでも安全に調子よく、長持ちさせるために定期点検を受けましょう。

点検時期（１） 点検項目		作業前点検	１ケ月目又は 20時間運転目	シーズン毎 除雪時期初め	シーズン毎 除雪時期終わり	４年毎
エンジン　オイル	点検、補給	○				
	交換		○	○ （又は100時間運転毎）		
オイル　フィルタ（エンジン）	交換	※１年毎又は200時間運転毎交換				
エア　クリーナ	清掃			○		
	交換	※１年毎又は300時間運転毎交換（紙製ろ過部）				
無段変速機オイル	点検、補給	○				＊分解時のみ交換
バッテリー液	点検	○				
	比重点検			○（２）		
トランス　ミッション　オイル	交換	※２年毎（２）				
オーガー　ミッション　オイル	交換	※２年毎又は200時間運転毎交換（２）				
スパーク　プラグ	清掃、調整			○		
	交換					○（250時間運転毎）
ソリ、スクレーバー	点検、調整	○		○		
クローラー	点検、調整			○		
オーガー、ブロアー ロックボルト	点検	○				
各部締め付け点検	点検	○				
フューエル　ストレーナ １次、２次	点検				○	
	交換	※２年毎又は400時間運転毎交換（２）（３）				
タンク、キャブレータの燃料	抜き				○	
格納時各部防錆、給油	塗布、給油				○	
シューター　ガイド回り	塗布、給油			○		
除雪クラッチ　スイッチ	点検、調整	○	○（２）	○（２）		
走行クラッチ　レバー	点検、調整	○	○（２）	○（２）		
後進ストップ装置	点検、調整	○		○（２）		

（１）点検時期は表示の期間毎または運転時間毎のどちらか早い方で実施してください。

（２）適切な工具と整備技術を必要としますので、お買いあげ販売店にお申しつけください。

（３）表示時間を経過後すみやかに実施してください。

点検時期(１) 点検項目		作業前点検	１ケ月目又は 20時間運転目	シーズン毎		４年毎
				除雪時期初め	除雪時期終わり	
スロットル　ケーブル	点検、調整			○(２)		
チョーク、サイド　クラッチ　ケーブル	点検、調整			○(２)		
走行／オーガー　ベルト	点検、調整			○(２)(４)		
アイドル回転	点検、調整			○(２)		
吸入、排気弁すき間	点検、調整			○(２)		
燃料室	清掃	○(250時間運転毎)(２)(３)				
燃料タンク、ろ過網	清掃					○(２)
燃料チューブ	点検	２年毎				
	交換					○(２)

(１)点検時期は表示の期間毎または運転時間毎のどちらか早い方で実施してください。

(２)適切な工具と整備技術を必要としますので、お買いあげ販売店にお申しつけください。

(３)表示時間を経過後すみやかに実施してください。

(４)ベルトに亀裂、異常摩耗が入っていないことを確認し、異常がある場合は交換してください。

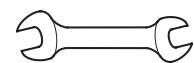
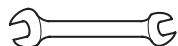
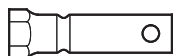
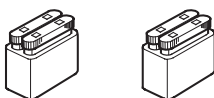
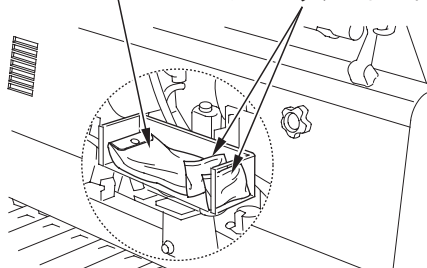
点　検　・　整　備　の　し　か　た

⚠警告

点検・整備は必ず平坦な場所でエンジンを停止し、誤ってエンジンが始動しないようにエンジン　スイッチ　キーを抜いて行ってください。

携帯工具と付属部品

工具は点検・整備にかかすことのできないものです。常に携帯してください。

(　　)は、個数を表示しています。

左側サイド　カバーの内側に格納

エンジン　オイルの交換

エンジン　オイルが汚れていると摺動部や回転部の寿命を著しく縮めます。交換時期、オイル容量を守りましょう。

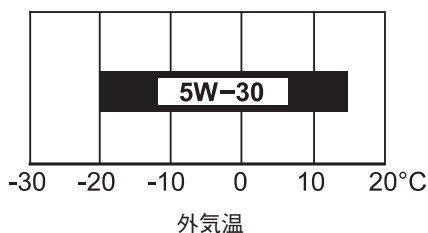
《交換時期》

初回：１ケ月目または20時間運転目、

以後：年１回除雪時期の初め、または100時間運転毎

《推奨オイル》

（４サイクル　ガソリン　エンジン　オイル）

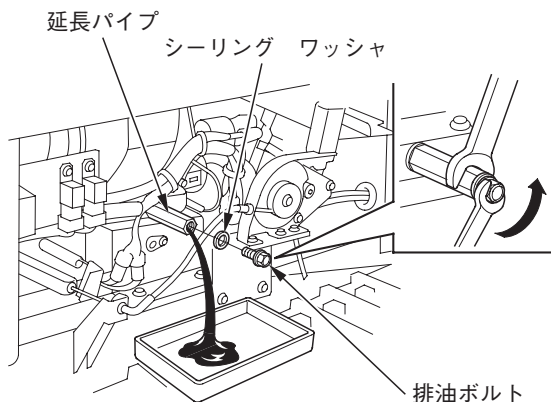
Honda純正汎用寒冷地オイル（SAE 5W-30）またはAPI分類SE級以上のSAE 5W-30エンジン　オイルをご使用ください。

《規定量》オイル交換時：　1.1 ℓ

オイル　フィルタ交換時：　1.4 ℓ

交換のしかた

⚠警告

エンジン停止直後はエンジン本体やオイルの温度が高くなっています。十分冷えてからオイル交換を行ってください。やけどをするおそれがあります。

1. オイル給油キャップを外します。
2. 排油ボルト、シーリング　ワッシャを外して、オイルを抜きます。
   排油ボルトを外す時は延長パイプをスパナで固定して外してください。
3. 排油ボルトをきれいにして、新しいシーリング　ワッシャを取付け、排油ボルトを確実に締付けます。

4. 新しいエンジン　オイルをレベル　ゲージの上限まで注入します。(32頁参照)
5. 注入後、オイル給油キャップを確実に締付けます。

取扱いのポイント

- 交換後のエンジン　オイルはゴミの中や地面、排水溝などに捨てないでください。オイルの処理方法は法令で義務付けられています。法令に従い適正に処理してください。不明な点はオイルをお買いあげになったお店にご相談のうえ処理してください。
- 外したシーリング　ワッシャを再使用するとオイルがにじみ出ることがあります。新しいシーリング　ワッシャを使用してください。
- オイルは使用しなくても自然に劣化します。定期的に点検、交換を行ってください。

エア　クリーナ（空気清浄器）の清掃、交換

エア　クリーナが目詰まりすると出力不足や燃量消費が多くなるので定期的に清掃、交換（紙製ろ過部のみ）をしましょう。

《清掃時期》　年１回除雪時期の初め

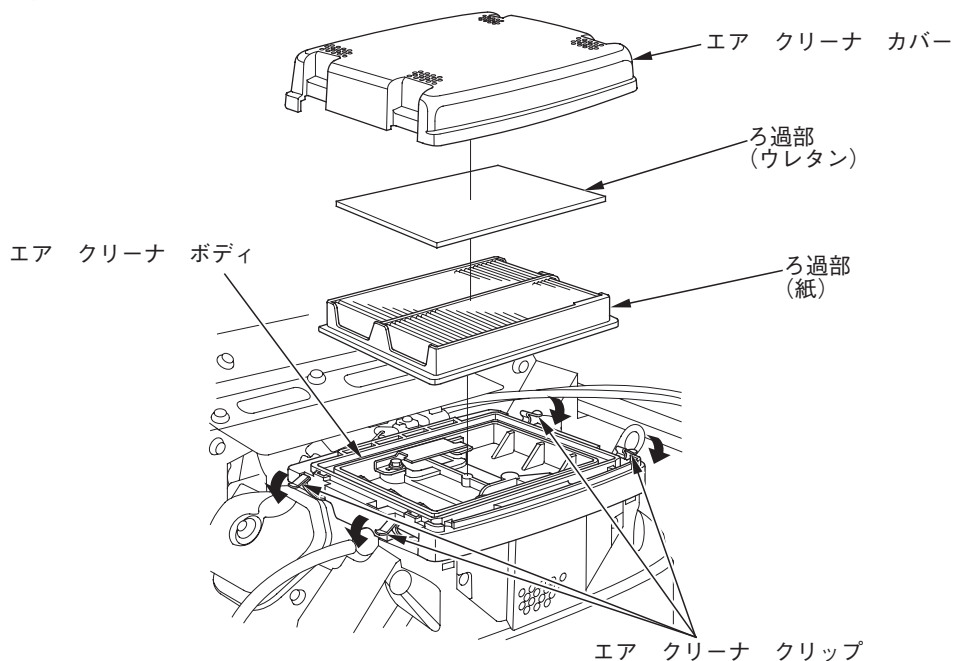
《交換時期》　紙製ろ過部のみ300時間運転毎または１年毎

清掃のしかた

1. エア　クリーナ　クリップ４つを外し、エア　クリーナ　カバーを取外します。

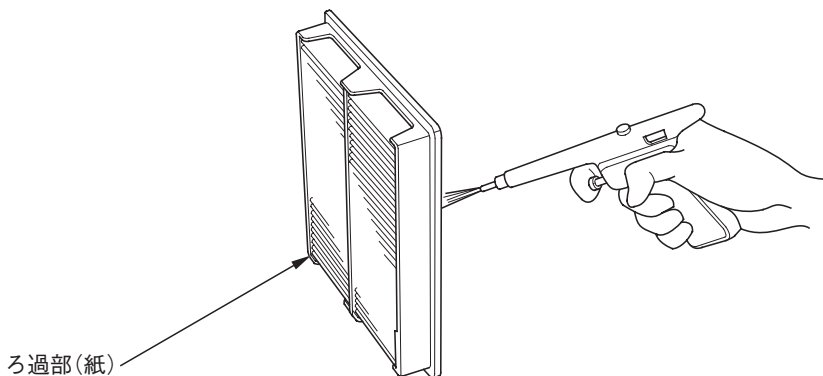
取扱いのポイント

エア　クリーナ　ボディ内側にホコリやゴミを落とさないように注意してください。キャブレータの詰まりなどの原因になります。

2. 紙製ろ過部、およびエア　クリーナ　カバー裏側のウレタン製ろ過部を取外します。

3. ろ過部(ウレタン)を洗い油で洗浄し、固くしぼってからエンジン　オイル(ウルトラU汎用－SAE 10W-30等)に浸し、ウレタンにオイルをつけすぎないように固く絞ります。

⚠注意

洗い油は引火しやすいので、タバコをすったり、炎などを近付けないでください。火災を起こす可能性があります。
換気の良い場所で洗浄を行ってください。

4. ろ過部(紙)の内側から圧縮空気を吹き付けるか、回りを軽く叩いて汚れを落とします。
   ・汚れがひどい場合は交換してください。(交換時期:62頁参照)

5. エア　クリーナ　カバーにろ過部(ウレタン)を取付けます。

6. ろ過部(紙)をエア　クリーナ　ボディに取付けます。

7. エア　クリーナ　カバーを確実に取付けます。

取扱いのポイント

カバーの取付けが不完全であったり、カバーやろ過部(ウレタン、紙)が取付けられていない場合は、エンジンの耐久性に著しく悪影響をあたえます。カバーやろ過部(ウレタン、紙)は確実に取付けてください。

点火プラグの点検、調整、交換

電極が汚れたり、電極のすき間が不適当ですと、完全な火花が飛ばなくなりエンジン不調の原因になります。

⚠注意

エンジン停止直後のマフラや点火プラグなどは非常に熱くなっています。やけどをしないよう作業はエンジンが冷えてから行ってください。

取扱いのポイント

- 故障の原因となるので指定以外の点火プラグを使用しないでください。
- 点火プラグの取付けは、ネジ山を壊さないように、まず指で軽く一杯までねじ込み、次にプラグ　レンチで確実に締付けてください。
- 点検調整後は点火プラグ　キャップを確実に取付てください。確実に取付けないとエンジン不調の原因になります。

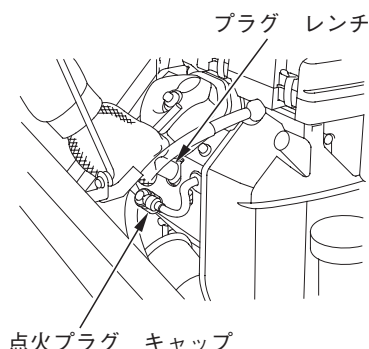
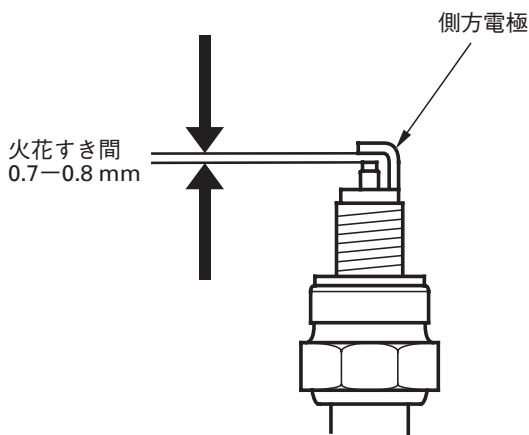
《清掃時期》　除雪時期初め

《交換時期》　250時間運転毎

《指定プラグ》　ZGR5A (NGK)

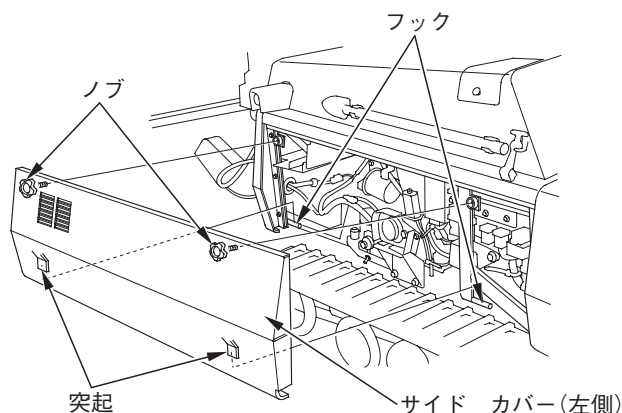
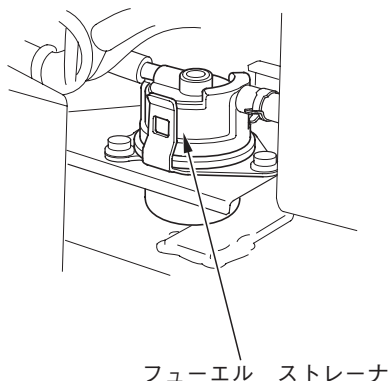
J16CR-U (DENSO)

清掃のしかた

1. 点火プラグ　キャップを取外してください。
2. プラグ　レンチ(同梱工具)で点火プラグを取外します。

3. 点火プラグの清掃はプラグ　クリーナを使用するのが最も良い方法です。お買いあげ販売店をご利用ください。
   プラグ　クリーナが無いときは、針金かワイヤ　ブラシで汚れを落としてください。
4. 側方電極を曲げて火花すき間を下記寸法に調整します。
   火花すき間：0.7－0.8 mm
5. 取付けはまず指で軽くねじ込み、次にプラグ　レンチで確実に締付けます。

フューエル　ストレーナ（１次）の点検

燃料タンクと燃料ポンプの間にフューエル　ストレーナが取付けてあります。フューエル　ストレーナの中に水がたまったり、目詰まりすると、出力不足や始動不良をおこします。定期的に点検してください。

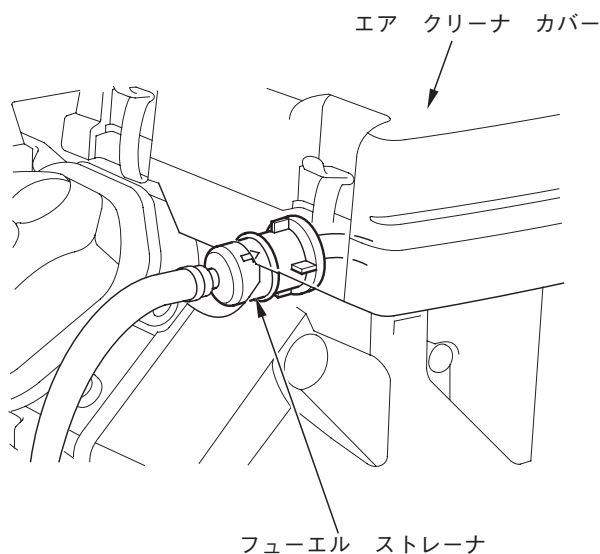
《点検時期》　除雪時期終り

1. 左側サイド　カバーを外します。締め付けノブを緩めサイド　カバーを上に引き上げます。

2. フューエル　ストレーナを点検し、中に水や沈殿物がある場合はお買いあげ販売店で交換してください。

3. サイド　カバーを取付けます。

フューエル　ストレーナ（２次）の点検

燃料ポンプとキャブレータの間にフューエル　ストレーナが取付けてあります。フューエル　ストレーナの中に水がたまったり、目詰まりすると、出力不足や始動不良をおこします。定期的に点検してください。

《点検時期》　除雪時期終り

フューエル　ストレーナを点検し、中に水や沈殿物がある場合はお買いあげ販売店で交換してください。

クローラの張り点検、調整

クローラの張りが正常でないと脱輪したり、寿命を著しく縮める原因になります。

《点検時期》

年１回除雪時期の初め

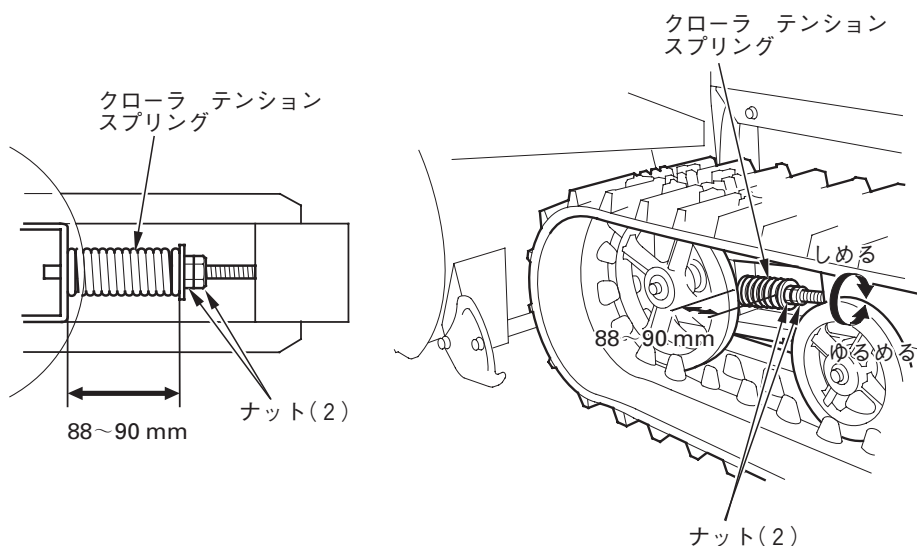
《点検のしかた》

クローラ　テンション　スプリングの寸法が88～90 mmになっているか点検します。

《調整のしかた》

1. テンション　ボルトのナット２個をゆるめて規定寸法になるように調整してください。
2. 調整後２個のナットを確実に締付けてください。
3. 左右同じ方法で点検、調整してください。

取扱いのポイント

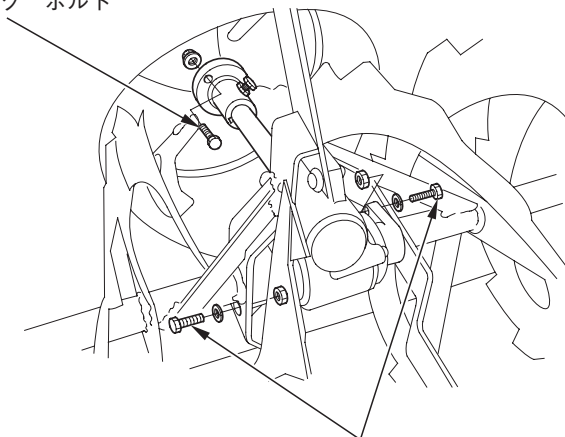
- クローラ　ゴムが凍結しているときは正しい張り調整ができません。必ず凍結を取り除いてから調整してください。
- 調整後本機を前、後進させ再度寸法を点検してください。

除雪部の点検

オーガ、オーガ　ハウジング、ブロアに損傷のないことを点検します。

オーガ、ブロア　ロック　ボルトのゆるみ、折れを点検します。

もし折れている場合は下記の手順で同梱されているロック　ボルトと交換してください。

ロック　ボルトの交換方法

1. 本機を平坦な場所に水平に止め、駐車ブレーキ　レバーを**“駐車”**の位置にしてください。
2. 除雪クラッチ、走行クラッチを**「切」**にしてください。(除雪クラッチ　スイッチが消灯)
3. オーガ　ハウジング調節スイッチでオーガをいちばん下まで下げてください。
4. エンジン　スイッチを**“停止”**の位置にしエンジン　スイッチ　キーを外します。各回転部が停止していることを確認してください。
5. 除雪部を点検してください。
6. オーガ、ブロアの凍結または異物(石、棒、針金など)を取除きます。
7. 折れたロック　ボルトを取除き、新しいロック　ボルトと交換し、確実に締付けてください。

☆新しいロック ボルト、ナットはお買いあげ販売店にご注文ください。

バッテリ

《端子の手入れ》

端子のゆるみ、腐食は接触不良の原因となります。ゆるんでいるときは締めつけてください。端子に白い粉がついているときは、バッテリを取外しぬるま湯で清掃し、完全に乾燥させてください。端子部が腐食している場合は、ワイヤ　ブラシかサンド　ペーパでみがきます。清掃がおわったら、端子接続後グリースを塗布してください。

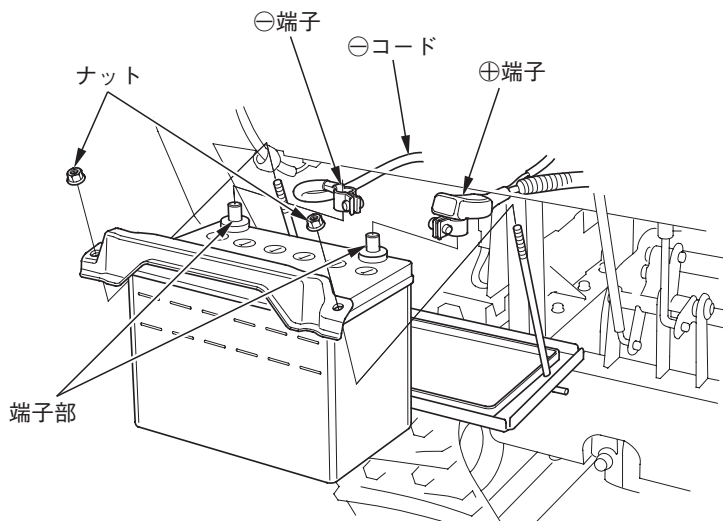
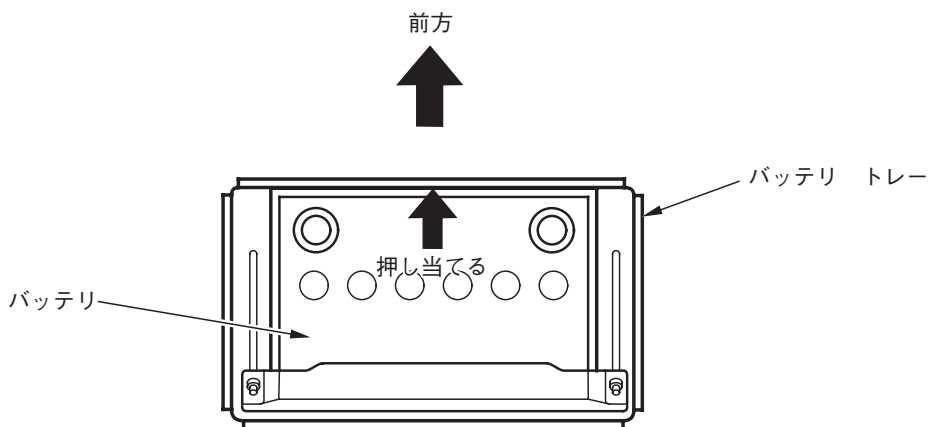
⚠警告

- バッテリを取扱うときはショートによる火花や火気に注意してください。バッテリからは可燃性のガスが発生しているので爆発の危険があります。
- バッテリ液面が下限以下のままで使用または充電はしないでください。バッテリ液面が下限以下のままで使用または充電をするとバッテリの劣化を早めたり、破裂（爆発）の原因となるおそれがあります。破裂（爆発）の場合は、重大な傷害に至る可能性があります。
- バッテリの結線は正確に行ってください。接続時は⊕側から接続し、外すときは⊖側から外してください。工具の接触などでショートする場合があります。
- バッテリ液は希硫酸です。目や皮膚につくとその部分が侵されますので十分注意してください。万一、付着したときはすぐに多量の水で少なくとも15分以上洗浄し、専門医の診断を直ちに受けてください。

取扱いのポイント

- 長時間使用しない場合には、⊖バッテリ端子を外しておいてください。
  長期間保管中は、6か月に1度補充電を行ってください。
- バッテリ補充液（蒸留水）を入れすぎると電解液がこぼれ金属を腐食させる原因となります。上限（UPPER LEVEL）以上入れないでください。万一バッテリ液をこぼしたときには、必ず水洗いをしてください。

バッテリの取外し・取付け

1. バッテリ㊀端子の接続を外します。
2. バッテリ㊉端子の接続を外します。
3. ナットをゆるめて、バッテリを引き出します。

4. 逆の手順で取付けます。
   ・バッテリは、バッテリ　トレーの前側に押し当てて固定してください。

ヒューズについて

ヒューズが切れたら、その原因を調べてから規定容量のヒューズに交換してください。そのまま交換しても再び切れるおそれがあります。

ヒューズが切れると、

ブレード　ヒューズ：

・3 A… エンジンが回りません。
走行クラッチ、除雪クラッチが入りません。

・10 A… エンジンが回りません。
走行クラッチ、除雪クラッチが入りません。

ブロック　ヒューズ：

・30 A… エンジンが回りません。
走行クラッチ、除雪クラッチが入りません。

・60 A… オーガ調節が出来ません。

・30 A(シューター)… シュート調節が出来ません。

・30 A(クラッチ)… 走行クラッチ、除雪クラッチが入りません。

1 A… オーガ調節ができません。

取扱いのポイント

指定ヒューズ以外の物、たとえば針金、銀紙などを使用すると配線などを焼損させる原因となりますので、絶対に使用しないでください。

《交換のしかた》

1. 左側サイド　カバーを開けてください。(29頁参照)
2. 切れたブレード　ヒューズを新品のブレード　ヒューズ(1 A、3 A、10 A、30 A)と交換してください。

☆指定ヒューズは、お買いあげ販売店にご注文ください。

3. 30 A、60 Aブロック　ヒューズの交換は、お買いあげ販売店で修理を受けてください。

取扱いのポイント

3 A、10 Aヒューズを逆にセットしないでください。故障の原因になります。

30 A
（シューター）

30 A
（クラッチ）

10 A
（エンジン　スイッチ）

60 A
（オーガ　ローリング）

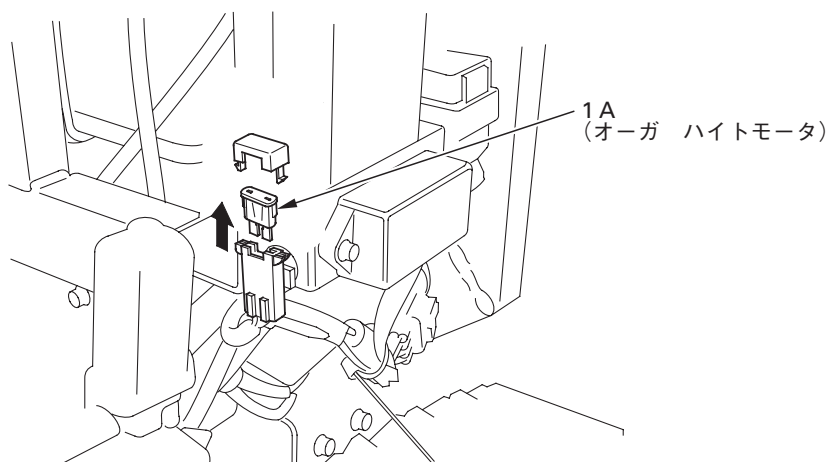
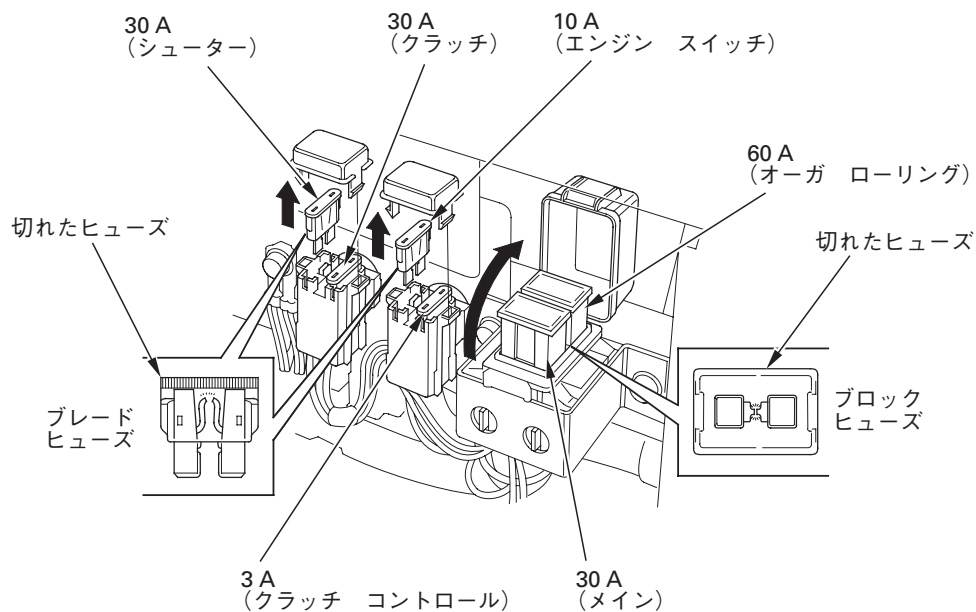
切れたヒューズ

切れたヒューズ

ブレード
ヒューズ

ブロック
ヒューズ

3 A
（クラッチ　コントロール）

30 A
（メイン）

各部の作動点検

年１回除雪時期の初めに、次の点検を行ってください。

・エンジンの始動、停止

・レバー類の作動

・スイッチ類の作動

・その他の可動部分の作動

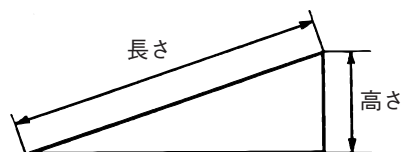
運搬するときは

アユミ板を使ってのトラックへの積み降ろし

⚠警告

車への積み降ろしをする場合は、必ずアユミ板を使用しゆっくり行ってください。転倒落下によりケガをするおそれがあります。

《積み降ろしをする前に》

1. 積み降ろしは平坦な場所で行ってください。
2. 使用するアユミ板は本機の重量＋作業者の体重に耐えられる物を使用してください。
   本機の総重量： 475 kg
3. 下の表を目安に傾斜角度が15度以下になるようなアユミ板を選んでください。

アユミ板の長さ	2.5 m	3.0 m	3.5 m
地面からアユミ板までの高さ	50 cm	60 cm	70 cm

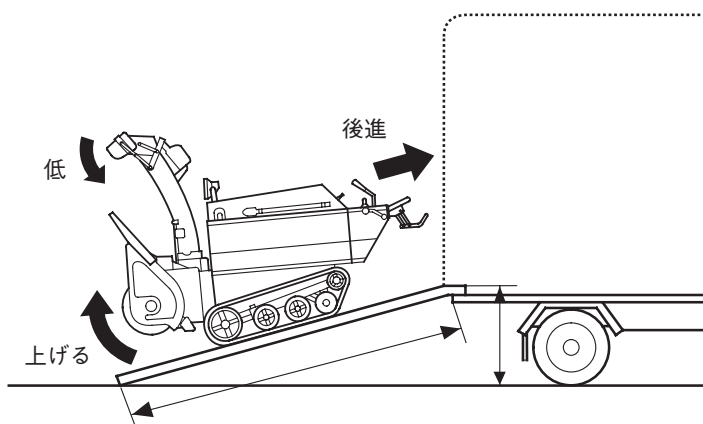
4. 幌または、キャブ付のトラックでは、あらかじめ高さを確認してください。
5. 燃料が十分あるか確認してください。"空"に近いとエンストしてしまうことがあります。

《手順》

1. アユミ板の幅をクローラの幅に合わせます。
2. エンジンを始動し、オーガ　ハウジング調節レバーで、オーガを最上位置まで上げます。
3. 投雪方向調節スイッチで投雪口をいっぱいに下げます。

4. 変速レバーを低速(作業用)、後進に入れ十分に車速を落として、後進でアユミ板を登ります。
5. 除雪部がほろなどに当たらないように注意しながら本機をトラックの荷台に乗せてください。

⚠注意

- アユミ板の上を移動途中に、サイド　クラッチ　レバーによる操作を絶対に行わないでください。アユミ板から本機が落ちる場合があります。
- アユミ板の上を移動途中での停止は極力さけてください。万一停止した場合は変速レバーを低速側のニュートラル　ポイント(走行クラッチを「入」にしても本機が動かない位置)にして再始動してください。(41頁参照)
  変速レバーは“N”(中立)の位置にしないでください。本機が空走することがあります。

6. 燃料コック　レバーを“OFF”(止)の位置にして、運搬してください。

長期間使用しないときの手入れ

除雪シーズンが終わり長期間格納するときは、次のシーズンも快適にお使いいただくために次の手入れを必ず行ってください。

1. 保管するときは、エンジン　スイッチ　キーを外してください。
2. 燃料タンク、キャブレータ(気化器)の燃料を抜きます。

30日以上使用しないときは、燃料タンクおよびキャブレータ(気化器)内のガソリンを抜きます。ガソリンは自然劣化しますので必ず抜いてください。古くなったガソリンは故障の原因となります。

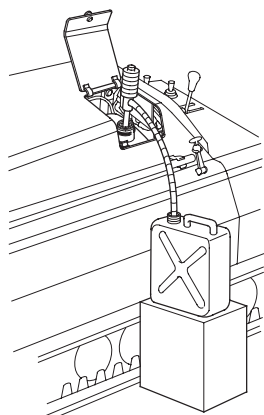
⚠警告

ガソリンは非常に引火しやすく、また気化したガソリンは爆発して死傷事故を引き起こすおそれがあります。

- 火気を近づけないでください。
- 換気の良い場所で行ってください。
- ガソリンはこぼさないようにしてください。万一こぼれたときは、布きれなどで完全にふき取ってください。ガソリンをふき取った布切れなどは、火災と環境に十分に注意して処分してください。

《抜きかた》

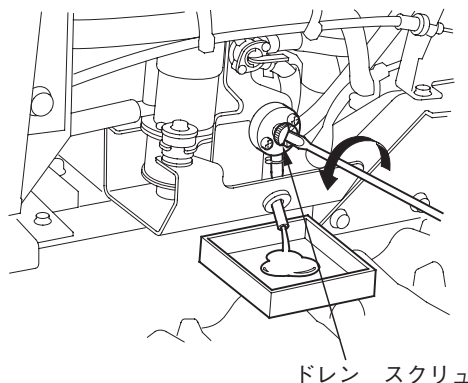
－1. 燃料タンク内の燃料を抜きます。

－2. 左側サイド　カバーのノブを左に回しゆるめ、左側サイド　カバーを上に引き上げて外します。(29頁参照)

−3. キャブレータ内の燃料を抜きます。

a. 燃料コック　レバーを“ON”(出)の位置にします。

b. ドレン　スクリュをゆるめ、燃料を容器に受けます。

c. 燃料が抜けたらドレン　スクリュを確実に締付けます。

d. 燃料コック　レバーを“OFF”(止)の位置にします。

−4. 左側サイド カバーを取付けます。

・左側サイド　カバーを取付けるときは、サイド　カバーの突起を本機側のフックに入れてください。

3. バッテリの手入れ

保管時は、バッテリの㊀端子を外しておいてください。(72頁参照)

長期間使用しない場合、または作業を終わり長期間格納する場合は放電しますので６ヵ月に一度および除雪時期の初めと、終わりにバッテリを外して補充電を行ってください。

充電器は12 V用をご使用ください。

充電時間：4.5 Aで約10時間(標準)

4. 保管時の給油箇所

水気、汚れを拭きとり、乾燥後に回転部および摺動部にオイルまたはグリースを注油してください。

:オイル(エンジン　オイル5 W-30、10 W-30相当品)

グリース :グリース(低温用)

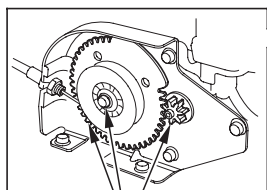
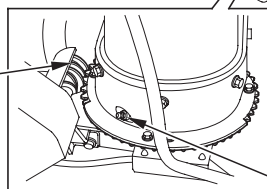
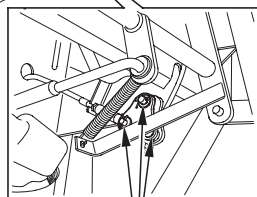
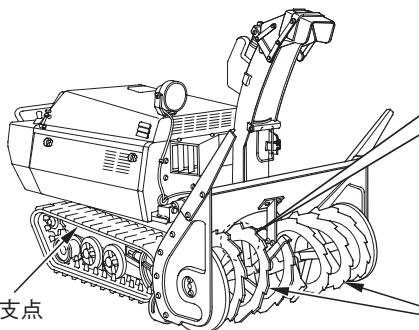
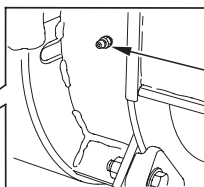
グリース　または　オイル
各レバーのリンク部分
(摺動部)

オイル

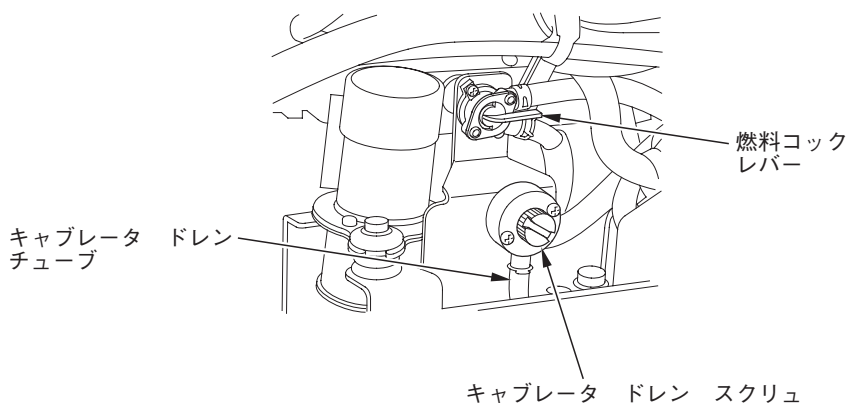
グリース
モーター部分とケーブル部

グリース
リンク　ギア

グリース
シュート

グリース
クラッチ　ケーブル　アーム部

長期保管後の点検(除雪シーズンに初めて使用する前の点検):

長期保管後、初めて燃料を補給したときは、キャブレータのドレン　チューブから燃料が漏れていないことを下記の手順で確認してください。キャブレータ　ドレン　スクリュの締付けが不完全な場合、燃料が漏れることがあります。

1. 左側サイド　カバーを取外します。(29頁参照)
2. 燃料コック　レバーを“ON”(出)の位置にします。
3. エンジン　スイッチを“運転”の位置にし、キャブレータ　ドレン　チューブから燃料が漏れていないことを確認します。

4. 定期点検の表(57、58頁)にしたがい点検を行ってください。

故　障　の　と　き　は

まずご自身で次の点検を行い、その上でなお異常があるときは、むやみに分解しないでお買いあげ販売店へお申しつけください。

始動しないときは、次の点を確かめましょう。

1. 始動方法は、取扱説明書どおりですか?
2. 燃料はありますか?
3. 燃料コック　レバーは“ON”(出)の位置になっていますか?
4. エンジン　オイルは規定量ありますか?
5. バッテリ　コードは確実に接続されていますか?
6. ヒューズは切れていませんか?
7. シュート　カバーが確実にセットされていますか?
8. 点火プラグ　キャップは確実に取付けられていますか?
9. 点火プラグのすき間は正しいですか?
10. 点火プラグは汚れていませんか?

主　要　諸　元

名　称	スノー　ファイター HS1810Z1
型　式	SZBK

エンジン

名　称	GX610K1
最大出力／回転速度 （SAE J1349に準拠＊）	12.4 kW (16.9 PS)/3,600 rpm
排　気　量	614 cm³
内　径　×　行　程	ø77.0 × 66.0 mm
始　動　方　式	セルフ　スタータ
点　火　方　式	トランジスタ　マグネト点火
オ　イ　ル　容　量	1.1 ℓ（フィルタ交換時 1.4 ℓ ）
燃料タンク容量	13.3 ℓ (フューエル ストレーナ底面位置)
点　火　プ　ラ　グ	ZGR5A (NGK)，J16CR-U (DENSO)

＊ここに表示したエンジン出力はSAE J1349に準拠して3,600rpm（エンジン最大出力）で測定された代表的なエンジンのネット出力値です。量産エンジンの出力はこの数値と変わる事があります。

完成機に搭載された状態での実出力値はエンジン回転数、使用環境、メンテナンス状態やその他の条件により変化します。

フレーム

全　長	2,320 mm
全　幅	1,000 mm
全　高	1,650 mm
乾燥質量［重量］	460 kg
除　雪　幅	1,000 mm
除　雪　高	670 mm
投　雪　距　離	最大25 m（雪質および投雪方向により異なります。）

注意：諸元は改良のため予告なく変更することがあります。ご了承ください。

配線図

BAT ST IG E LO
OFF
ON
ST
コンビネーション スイッチ接続表
Co L1 L2
OFF
ワーク ライト スイッチ接続表
COM UP DN RH LH
N
UP
DN
RH
LH
シュータ コントロール スイッチ接続表
R.ハーネス ブロック
ローリング R. リレー
ローリング L. リレー
ブラケット アース
フレーム アース
レギュレータ
インターロック コントロール ユニット
ワーク ライト
ローリング モータ
オーガ クラッチ スイッチ
イグニッション スイッチ
シュータ コントロール スイッチ
オーガ コントロール スイッチ
ライト スイッチ
ライト ダイオード
走行クラッチ スイッチ
フューエル ユニット
バッテリ
コントロール パネル ライト
インジケータ メイン クラッチ オン
オーガ クラッチ オフ
オーガ クラッチ オン
フューエル メータ
インジケータ オイル プレッシャ
チャージ
シュータ
タイマ
コントロール パネル ブロック
クラッチ コントロール ユニット
ヒューズ ボックス1
ヒューズ ボックス2
ヒューズ ボックス3
シュータ コントロール ユニット
パワー ハイト リレー
デジタル タイマ ユニット
エンジン ストップ ダイオード
スパーク ユニット
フューエル カット ソレノイド バルブ
オイル プレッシャ スイッチ
スパーク プラグ
イグニッション コイル
スタータ モータ
ACジェネレータ
エンジン アース
エンジン ブロック
シュータ ライト
シュータ カバー スイッチ
シュータ モータ
シュータ ガイド モータ
シュータ ブロック
フューエル ポンプ
オーガ クラッチ オンセンサ
オーガ クラッチ オフセンサ
フレーム アース
ブラケット アース1
ブラケット アース2
ハイト モータ
オーガ クラッチ モータ
モータ ドライブ ユニット
ヒューズ ボックス4
L.ハーネス ブロック
COM UP DN RH LH
N
UP
DN
RH
LH
オーガ コントロール スイッチ接続表

Honda汎用製品についてのお問い合わせ･ご相談は、まず、
Honda販売店にお気軽にご相談ください。

販売店

TEL

お問い合わせ、ご相談は、全国共通のフリーダイヤルで下記の
お客様相談センターでもお受け致します。

本田技研工業株式会社　お客様相談センター

フリーダイヤル　0120－112010（イイフレアイオ）

受付時間　9：00～12：00　13：00～17：00
〒351-0188　埼玉県和光市本町８－１

所在地、電話番号などが変更になることがありますのでご了承ください。

Honda汎用製品に関してお問い合わせいただく際は、お客様へ正確、迅速
にご対応させていただくために、あらかじめ、下記の事項をご確認のうえ、
ご相談ください。

①製品名、タイプ名
②ご購入年月日
③販売店名